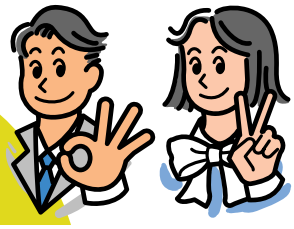
私の就職活動



就職支援セミナー

就職活動へのアドバイス

高橋　睦夫
広報活動専門委員会委員
（教授　医学部保健学科基礎検査学講座）

11月５日に、昨年に引き続いて山口大学大学会館において、これから就職活動を始める学生300名を対象に就職支援講演会が開催されました。講演終了後、ダイヤモンド・ビッグ＆リード社の降矢一朋氏の司会で「就職Ｑ＆Ａ勉強会」を開きました。２時間30分にわたって講師の坂本直文氏（有限会社キャリアデザイン研究所代表取締役社長）が各学部の学生の質問に答えて、就職活動に関して具体的にアドバイスをしていただきました。その中で、これからの就職活動に特に重要と考えられるいくつかのアドバイスを紹介します。

まず自己分析が必要

就職活動を始める前に、まず、自分の長所と短所を洗い出し、他人にはないものあるいは最も自分が優れているセールスポイントすなわち“うり”を確認する。この“うり”は特に企業面接の時に重要で、具体的な数値や実例（例えば、ピアノ歴が15年あり、〇〇大会で優勝、アルバイト先の〇〇コンテストでナンバーワンなど）をあげてアピールする（企業はやる気がある者、忍耐強く努力できる者を最も求めている）。短所は、人間誰しも持っているので、短所が多いからといって決して卑屈にならずに、自分の愛嬌としてとらえる。とにかく、自分に自信を持つことが大切である。

就職活動

大学３年生の10月から就職活動が可能である。就職活動は情報戦であるので、企業のHPや情報誌などをみて、最先端の情報を収集することが大切である。また、就職活動にはお金がかかるが（就職活動費：約月７万円）、投資と考えて行うとよい。

坂本直文氏 プロフィール

ベストセラー書籍：「劇的内定術」、「劇的シリーズ」、「劇的自己ＰＲ」（ソフトバンクパブリッシング）の著者。大学時代から就職コンサルタントを志し、証券会社、広告代理店、新聞社にて各種ビジネススキルを学び、面接官経験も豊富。就職講座の人気講師。ビジネス交渉術、広告のセオリー、心理学を駆使した具体的かつ実践的指導が特徴。対象はマスコミ、金融から公務員まで幅広く、人気企業を始め、地方有力企業、公務員、公益法人まで多数の内定者を輩出。全国の大学で年間100回以上講演。ダイヤモンドLEAD就職ナビにおける著者のコラム「マシンガンレクチャー」は全国の学生の人気コーナー。静岡県出身。立教大学理学部物理学科卒。資格：心理カウンセラー、EQコーチャー。現在㈲キャリアデザイン研究所代表取締役社長。
E-Mail：sakamoto4451@yahoo.co.jp
HP：www.gekiteki.net

年間就職活動スケジュール

	9～10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
活動状況	採用情報・募集要項の公開始まる 採用ホームページ稼働開始 インターネットによるエントリー始まる		一部で就職セミナー始まる		業界・企業研究会 説明会・セミナー最盛	各企業のエントリーシート締切り迎える 選考試験スタート	選考のピークと内定開始	各企業の一般職の募集集中		4～5割の学生が内定
活動のポイント	●自己分析、業界・企業研究開始 ●志望企業を大まかにリストアップ ●インターネットによるエントリー開始 志望企業にエントリーすると、クローズドなホームページへのアクセス権やメールでの採用情報が入手できるようになります。		●資料請求のハガキの発送開始 ●志望動機・自己PRの練り上げ 自分の興味を掘り下げ、アピールすべき点を明らかにしましょう。 ●OB・OG訪問やセミナーに参加し、自分の方向性を明確にしましょう。 ●志望企業の最終絞り込み		●山口大学は2月中に大学会館にて実施 ●活動が一気に盛り上がる時期なので、自己管理をしっかりと。	●活動が一気に盛り上がる時期なので、自己管理をしっかりと。 ●企業の動きに注意して出遅れないようにしましょう。	●面接が次々と実施されます。突然の呼びだしに応じられるよう、スケジュール管理・健康管理をしっかりと。	●ゴールデンウィークまでに内定がとれなかった人、教育実習などで就職活動ができなかった人も、まだこれからです。頑張りましょう。		●内定者懇談会が集中します。関係者へのお礼なども忘れずに。 ●内定が出てない人も、まだ応募・就職のチャンスはあるので、あきらめずに頑張りましょう。
	活動初期				活動中期			活動後期		

Check Point!

「自己分析」「エントリーシート」「企業研究」「面接試験」など、準備することの多さに初めのうちはあせりが生じることもあると思います。個々の対策に追われて全体像を見失うことのないよう、総合的な視点から対策を練るようにしましょう。また、友人と情報や意見交換を行うこともトラブルや問題解決の助けになります。

企業選び

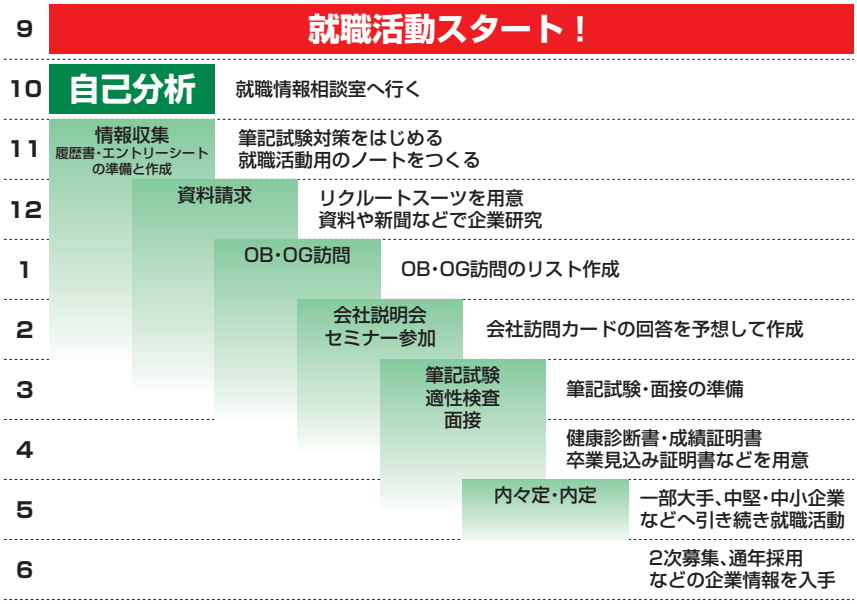
自分がやりたいこと、その仕事をすると楽しいと感じる職種・企業を選ぶこと。給料がよいあるいは大企業だからといって企業を選ぶと、入社して見当はずれだったり、仕事にあまり興味が持てなくなったりすることがある。やりたい仕事を見つけることは就職活動全般の熱意に関わることで、自分がこういう仕事がしたいという確固たるビジョンがあれば、困難な就職活動にも耐えられるし、面接の際も自信と熱意をもって対応できる。

企業面接

面接では、いかに面接官とうまくコミュニケーションがとれるかどうかを確かめられているもので、発表の場ではない。あまり長く話しすぎると落ちることが多い。面接官に聞かれたことだけ要点を絞って答える。自分が入りたいと思っている本命の会社を受ける前に、練習受験として5～10社を受けて、面接の場慣れ、反省などが行える。特に、入社する気がまったくない会社を受けるのも、気楽に受けられるので、練習になる。面接官は面接者の姿勢や話し方などをみるが、これらのことは面接時に気を付けても不自然となる。この対策としては、これからの日常生活を面接と思って、日頃から姿勢を正しくするようにし、友人との会話の際も大きな声でハキハキと答えるようにすれば、面接試験の時に自然体で受験できる。

以上、就職活動の専門家のアドバイスを紹介しました。とにかく、自分がどんな仕事をしたいかが一番大切で、それが実現可能な企業を探すのが就職活動と思います。学生諸君には、実りある就職活動となることを期待します。

就職活動の流れ



就職支援体制の充実を目指して

松冨　直利
農学部　教授
学生支援センター長

就職構造の変化

「私の就職活動」についての原稿依頼がありました。私の学生時代を振り返ってみて、この分野で仕事をしたいという明確な目標を持っていただろうかと自問していますが、私の場合、この分野を学びたいという目標はあったものの、就職に対しては必ずしも明確な目標を持っていなかったというのが正直なところです。中にははっきりした目標を持って、その道を実現した仲間もいたのは確かですが、多くの仲間は、大学を卒業すれば社会が自分の役割を与えてくれると期待し、またそれがある程度保障されていたように思います。

近年、社会・経済構造のグローバル化で景気の低迷が続く中、企業はこのような状況にいち早く対応し、人材の確保と活用に多くのエネルギーを注いできて、これまでと異なる様相の雇用・勤務形態を適用してきています。一方、18歳人口の進学率が５割を超え、ユニバーサル化する昨今、就職・就業に対する学生の意識も変わってきており、大学における就職指導の在り方も大きな変革が求められます。

企業の求める人材

企業は「数を揃える採用」から、「質を重視する採用」へ、いわゆる「厳選採用」を行ってきています。しかし、新卒者採用の際、重視している基本能力はあまり変わってないと思われます。経済同友会の企業調査は、学部卒にはまず「行動力・実行力」、次いで「熱意・意欲」を求め、大学院修了者には、「専門知識・研究内容」、次いで「熱意・意欲」を要求し、共に「出身校」は選考条件に含まないと回答しています。これらの基本能力以外に特に重要視しているのが「面接の結果」とのことです。これまでにも増して、広い視野と基礎学力を持って、自発的にキャリアを積んでいくことのできる人材が求められ、人材の質が問われるようになってきています。

学生の就業意識

学校基本調査は、大学新卒者の約２割が就職も進学もしないまま卒業していることから、職業意識の希薄化、就労意欲の低下をあげています。大学を卒業したら就職するという従来の意識は確かに変化してきていると思います。しかし、学生の就職活動に対するアンケートからは、７～８割の学生が「自分の能力、個性、適性を見つめることができた」、「何を学ぶべきかがわかり、勉学意欲が増した」等の回答を得ており、就職活動を、自分自身を見直し、学ぶための動機付けのできる機会と捉えています。このように、学生が、就職活動を単に職業選択の場だけでなく、新鮮な学習の場として評価していることは、大学教育の一環として、キャリアデザイン教育をいっそう充実させ、学生が主体的に自己実現を図り、社会参加を意識して、自らの資質と能力を最大限に発揮するための支援を行うことが必要です。

学生支援センターの役割

今年の大卒者の就職率は過去最低の55.0%で、就職を取り巻く環境はいっそう厳しくなってきています。大学生活で将来の目的や目標を定めて就職活動に取り組み、自分の能力や適性に合う職業を選択されることを望みます。山口大学では平成15年度、「学生中心の大学」づくりの一環として「学生支援センター」を創設し、学生に十分な学力をつけるとともに、一人一人に応じたきめ細やかな就職指導や就職相談等の支援体制の充実・強化を図っているところです。大学生活の早い段階から職業観を醸成するため、共通教育科目として２コマの「キャリアデザイン」授業を設けました。また、「業界・企業研究会」や「学内OB・OG訪問」と称する懇談会を定期的に開催し、多くの企業人事担当者から、またOB・OGの方から企業の求める人材像や実体験報告の場を提供しています。併せて、就職活動を始めるにあたってのノウハウを満載した「就職活動ハンドブック」も発行しています。これらを積極的に活用して、希望に満ちた成果を獲得されることを願っております。なお、「学生支援センター」就職支援部では、２名の専任教官と１名の就職アドバイザーを配置し、「就職なんでも相談」に応じています、是非訪問して下さい。

就職活動を楽しもう

平尾　元彦
学生支援センター　助教授

1．就職活動は「選ぶ」ということ

「就職活動を一文字で表すと『選』という字を書きます。」との話を私はよくします。もちろん採用試験などで学生の皆さんは選ばれる存在ですが、むしろ重要なことは、皆さんが職業を選ぶということです。やや大げさに言えば「人生の選択」でもあるわけです。大学生の多くは大学を卒業し、あるいは、大学院を修了して、学業の道から就業の道へと進んでいきます。それは人生の大きな転換点だと思います。だからよく考えて、仕事を理解して、職業を選んでほしい。そのために就職活動にも全力投球をしてほしいと思っています。

2．ある人事担当者の話

ある人事担当者がこんなことを言っていました。「必ず他社の面接を受けてから当社においでください」これには二つの意味があります。ひとつは、幅広く仕事を知った上で当社を選んでほしいということです。よく知らずに選択をすると後々ミスマッチになることがあります。それはお互いに避けたいことです。他社のことも研究したうえで当社を選んでほしいと、会社の方は思っています。

もうひとつは、面接官は皆さんと話をしたいわけでコミュニケーションがとれないと選びようがないのです。現実に面接会場で話ができない学生が多いとのこと。緊張するなと言っても無理でしょう。「最初は全然だめだったけど、ある時期から自分の想いを伝えることができるようになった」とは、多くの先輩の経験談です。社会人の大人との会話に慣れること、これも就職活動には重要なことです。

3．ライブな感覚

CDもいいけどやっぱりライブだよね！　音楽好きの皆さんなら納得できるでしょう。仕事選びのホームページもいいけどライブ感覚も重要です。毎日どんな仕事をしているのか、その仕事が会社でどんな役割を果たしているのか、どういうときにやりがいを感じるのか、どのようなスキルが身に付くのかなどなど、実際に働いている方との話の中で仕事の理解は進むでしょう。会社のセミナーに参加するほか、会社を訪ねて雰囲気を知る、OB・OG訪問やインターンシップの就業体験に参加するなど、仕事を選ぶためにできることはたくさんあります。

4．就職活動を楽しもう

就職活動を楽しもう！　これが皆さんに伝えたいメッセージです。知ること学ぶことの楽しみは、皆さんが大学に入って実感したことと思います。社会を知り、仕事を知り、自分の将来の道を想い描いてください。就職活動では、いろんな仕事の話を聞くことができます。会社の方も丁寧に説明してくださいます。多くの素敵な出会いもあるでしょう。ライブな感覚を大切にしてください。

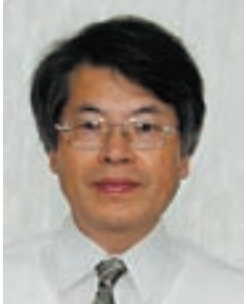
山口大学では、２月に「業界・企業研究会」を開催します。昨年度実績では66社の人事担当者が来学し、会社の方向性や求める人物像などお話しいただきました。「最初は〇〇業界はまったく頭になかったんですが、いろいろ知りたいと思って学内の業界・企業研究会には可能な限り参加しました。そこで△△社の考えに共鳴したんです。それで結局その会社を選ぶことにしました」とは、参加した学生の後日談です。自分の視野を広げるという意味でも業界・企業研究会は有効ですよ。幅広く参加していろんな仕事を理解して、自分の職業発見に役立ててください。

それから、山口大学の卒業生がときどき大学に来てくれているのをご存知でしょうか？　「学内OB・OG訪問」と称する懇談会を随時開催しています。遠方に出向かなくてもキャンパスで先輩方と話ができるチャンスです。ほかにも各学部において皆さんの就職活動を応援する様々な取り組みがなされていますので、学内でのこれら機会を活用することも、就職活動を楽しむ秘訣だろうと思います。

学部３年生・修士１年生の皆さんは、いよいよ就職活動です。自分を発見し、仕事を発見する過程は楽しくもあり、苦しくもあり、もしかしたら困難に直面するかもしれません。もし困ったら、そのときは遠慮なく相談してください。私たちは皆さんの就職活動を応援しています。

学内OB・OG訪問風景
（平成15年10月６日）

自分を生かす道を探そう



平山　豊
キャリアデザイン専門委員会 専門委員
人文学部　教授

はじめに

人文学部の就職支援の役を引き受けてからまだそれほど経っていませんが、以前から気に掛かっていたことがあります。卒業を控えた４年生の顔色や態度に微妙な明暗の差が表れるからです。いまだ身の振り方の決まらない学生は沈黙がちになり、あてどない表情をしていてこちらから言葉をかけるのも憚られます。そんな学生が後にどこそこに就職したと聞くと本当にうれしくなります。

永年の不況で依然雇用環境は厳しく、取り立てて専門知識や技能があるわけではない文系学生は苦戦を強いられています。そんな中、人文学部の５人の就職支援委員の先生方や専門職員の方と協力して少しでも学生の皆さんの就職の手助けが出来ればと願っています。

人文学部生の志望は

何と言っても高校や中学の教師や公務員志望が多いのが人文学部の特徴となっています。それにやはり公務員の範疇に入るでしょうが図書館員や美術館員の希望も目立ちます。当学部では教員免許、司書、学芸員の資格が取得できるのと関係あるかもしれません。

確かに学生時代に学んだことがこうした分野で最も生かされ、しかも安定した身分が約束されますので出来るだけ多くの人がこうした道に進めたらと願っています。

しかしながら少子化、財政の悪化、市町村合併等の流れの中でどの採用枠も狭められますます狭き門になっているのが実情です。教員免許、学芸員、司書の資格がそのまま採用に繋がるわけではありませんので採用試験に備え早い時期からの準備が合格への道です。

それから公務員をめざすにしても、親や周囲の勧めでなんとなくという人はもっと仕事の内容を具体的に思い描いて決めた方がよいでしょう。もし体力に自信があれば警察官や消防署員も狙い目かもしれません。

フレキシビリティーを

教師や公務員になるには難関を突破しなければなりません。合格者はたとえば10人に１人とか20人に１人といった割合ですからもし不合格になったらどうするかという問題が生じます。臥薪嘗胆の譬えの如くあくまで初志を貫こうとするのもひとつの生き方ですが現実問題として民間企業への就職を考えざるを得ない人もあるでしょう。実際には大手企業の採用の時期が公務員試験に先立ちますので最初から両面作戦を立てねばならず苦しいところです。自分の気持ち、家庭の事情等を考慮しながら慎重にまたフレキシブルに考えて決めましょう。

最初から民間企業を志す人は早くから志望の業種または企業の目星をつけて情報収集を心がけましょう。インターンシップは業界や企業の内実に触れる有効な手段です。色々な実施形態のものがありますが機会があればチャレンジしてみて下さい。

企業研究も大切ですが、果たして志望する業種に適合するかどうか翻って自分の能力や適性をしっかり把握しておかねばなりません。ここでも思い込みに拘らない柔軟な考えが必要です。３年生の時に適性検査を受け客観的に診断してもらうのもその一助になるでしょう。適職はひとつだけではなく複数ある可能性もあるということもわかってくるでしょう。

できるだけ多くの人に一流企業に入社して存分に活躍してほしい気持ちは多分にありますが、一流企業に入れなかったとしても気落ちすることはありません。一流企業が必ずしも自分の個性や能力を生かしてくれるとは限りませんし，もう寄らば大樹というご時世ではなくなりつつあります。知名度や規模の大小ではなく、要は自分を生かしてくれ、キャリアアップできる会社にうまく出会えるかどうかです。そのためにはそれなりの努力が必要であるのは言うまでもありません。

学卒の３年後の離職率は３割と言われています。職場の環境が厳しくなっているのも事実ですが、ミスマッチが要因のケースも多いはずです。好きでやりがいのある仕事なら誰しも多少の苦労は辛いと思わないでしょうから。

最後になりましたが、就職活動中は精神的にも肉体的にもかなりタフでなければ挫折してしまいます。日頃から心身とも鍛錬しておきましょう。

『教育学部生の就職』

村上　清文
教育学部　教授
就職支援部委員長

1．就職状況

まず、ここ１、２年の教育学部卒業生の就職状況を紹介します。平成14年３月および平成15年３月卒業生の就職希望者ベースの就職率は、学部全体で、82～83％前後を推移しており、近年好転しつつあります。就職決定者の産業別内訳は、２年間の平均で、教員45％、サービス業16％、公務員9.5％、小売業8.6％、金融・保険４％などとなっています。

教員養成課程の卒業生の教員就職に関しては、平成14年３月卒業生について、臨時採用教員を含めて卒業者数ベースで47.7％が教員として就職しております。これは、全国48教員養成系大学・学部中15位にランクされている数字です。平成15年３月卒業生については、59.2％、すなわち約６割の学生が教員として巣立っております。教員希望者ベースでは92.4％に相当し、希望者のほとんどが教員になっております。これは近年の臨時採用教員需要の増加によるものであると同時に、潜在的にも教員需要が増加していることを示しています。他方、正規採用に関しては、教員希望者ベースで20％程度と、現時点では、依然厳しい状況に変わりはありません。しかし、教員需要の増加によって、大都市圏では、採用試験合格者に占める現役学生の割合は50％に達していると聞いております。したがって、地元への就職にこだわらなければ、正規採用への道は大きく開かれていると云えます。

教員以外の就職に関しては、最近問題とされている就職活動の早期化と長期化が進行しており、本学教育学部生の就職活動についてもこの傾向がうかがえます。地域、業種や企業規模によって、企業の採用活動の時期が異なるようです。就職問題懇談会のアンケート調査によると、学生の就職活動の開始時期は12月以前、２月上旬、３月上旬、４月上旬にピークがあり、内内定の時期は５月中下旬と６月下旬以降にピークがあるようです。教育学部の非養成課程が設置されてから十数年が経過しますが、中国地域の中堅企業を訪問した際に感じますことは、本学教育学部卒業生の仕事ぶりはかなり高い評価を得ているということです。要は、自分が何をやりたいかを十分に見極め適した職業を選ぶことでしょう。

2．就職活動支援

本年度から教育学部の就職支援体制は、就職支援部へと改組することによって強化されました。その構成は、委員６名、専門職員１名、教室委員21名、顧問２名および協力員10名となっております。

活動内容は、１）教員採用学内模試（前期（４年次４－７月）、後期（３年次12－３月））および学外模試、２）教職教養・小学校ビデオ講座、３）教員採用試験直前セミナー（一次対策（４－７月）、二次対策（８月））、４）職業適性検査（R－CAP）、５）教員・企業就職体験報告会、６）就職講演会、７）企業訪問、８）企業希望者のための模擬面接などです。今年度は、教員採用試験対策および企業希望者のための就職対策を特に充実したいと考えております。学生諸君には、十分に活用していただければと思っています。なお、上記の支援活動の内の幾つかについては、卒業生や教育学部以外の学生諸君にも開放しております。

3．学生諸君へ

教員、企業、あるいは公務員、いずれにしても、最近は「人物重視」ということが云われています。仕事をする上での基本的な能力以外に、具体的には、「タフさ」、「明るさ」、「自分なりの考え」を持っているかや「人（の意見）への対し方」等が見られます。もっと平たく云えば、教員にあっては「安心して、子供を任せられるか」であり、企業などでは「一緒に仕事をしたいと思うか」です。このような人間的側面は専門の勉学のみでは得難く、クラブ活動ほかの人間関係や読書、あるいは社会的な体験や経験など、大学生活全般を通して身につけていくものです。こういった意味から、充実した大学生活を送ることが何よりも重要だと心に留めておいていただきたいと思います。

「私の就職活動」

植村　高久
経済学部　教授
経済学部就職担当委員

よい就職活動をするために

この文章はとくに民間企業を目指す３年生の人を対象に、就職にどう取り組んだらよいかについての、いくつかの具体的なヒントを与えることを目的にしています。他の学年の人にも、就職指導を行う先生方にもたぶん役立つと思います。

1．出遅れないように

まず大切なことは、「出遅れないように」です。３年生向けの会社説明会や面接は１月頃からですが、11～12月には会社説明会等へのエントリーが始まり、早ければ４月に内内定が出ます。

リクナビ　「リクナビ」へは登録しましたか？　「リクナビ」とはリクルート社の就職ナビゲーターというサイトのことで、日本のネット経由大卒求人情報のほとんどがここに集まり、メールで情報を送ってくれます。これなしでは、就職活動ができないとさえ言われています。必ず登録するようにして下さい。

プロバイダへ入る　会社との連絡などは、メールで行われるケースが多い。連絡用に携帯メールは絶対に使わないで下さい。着信メールがあふれて受け取れない、字数制限で文が切れるなど泣くに泣けないことが起こります。携帯メールを登録しただけで、やる気を疑われるという話も聞きます。当分は大学のメールアドレスを利用できます。ただし、学外から電話線経由でアクセスするのは大変難しくなります。就職活動が本格化し、外からアクセスせねばならなくなる１月頃までにパソコンを用意し、プロバイダに入って、学外でもメール送受信、ホームページ閲覧が出来るようになる必要があります。

親と話をする　就職活動を始めるまでに絶対に必要なのは、父母と徹底的に話をしておくことです。意見が合わないかも知れませんが、自分の意思・気持ちを明確に伝えておくこと。就職活動資金は最低でも30～40万円、ちゃんと就職活動をやろうとすれば100万円位はかかりますが、このお願いもしておく必要があります。資金がないと悲惨な就職活動を強いられるケースが多い。どうか逃げないで、父母と話をして下さい。

2．経験と情報を有効活用する

大多数の３年生はどんな業種・職種を選べばよいか、まだ決まっていない状態だと思います。「自己分析」と「業界・企業研究」は就職活動の大前提ですから、これでは就職活動を始められないと考えがちです。しかし、先輩の多くは「自己分析」も「企業研究」も不十分なまま就職活動を始めています。ここでは「活動しながら学ぶ」が基本だと思います。

就職戦線へ出てみる　まずは「最初の一歩」を踏み出すのが大事です。絶対に行きたいという会社でなくとも、説明会や面接へ行ってみる。スーツを着て身なりを整えて、就職戦線を体で感じること、これであなたの生活は「就職モード」に切り替わります。

就職活動ノートを作ろう　就職活動は自分と向き合うしんどい作業が多い。手帳でも構いませんが、たとえば説明会へ行ったときには、興味を引いた点や得たこと、疑問点などをノートに書いておく、あわせて自分の気持ちも書いておけば、後で大いに役立ちます。ノートを取る習慣をつければ経験が確実に活かせます。

情報を大切に　リクナビからは１日に数十から百もメールが送られてきます。たいていが知らない会社で、「ホームページからエントリー」とか書いてある。これを捨ててしまう人がいますが、とくに初期はけっしてそのまま捨ててはいけません。ホームページへ行って、どんな会社か見てみる。とくに、業務や業績、経営理念などには目を通すべきです。かなり時間がかかりますし、最初は何を言っているかよくわからないと思いますが、繰り返してゆくとどんな会社か、自分に向いているかいないかが次第に分かるようになってきます。「企業研究」は、説明会とＨＰ閲覧でかなりのところまで可能です。どうか情報を無駄にしないように。

先輩を訪問する　会社説明会や面接だけでは、実際どんな会社かはなかなかわかりません。そこで活用できるのが先輩です。先輩に電話し、アポを取って会って話を聞くと会社の実際はよく分かります。先輩をどうやって探すかは、各学部の就職担当係で聞いてみましょう。

3．その他の留意点

エントリー　最近は「エントリーシート」と言って、履歴書だけでなく、志望動機や自己分析をたくさん書いたものを応募時に出させる企業が多い。最初は１件書くの

に何時間もかかってしまいますが、風評によれば、１～2の内定を得るためには100程度の応募が必要です。一度に100も応募することは不可能ですが、継続的に応募して内定が出るまで常時10～30社程度に応募しているべきです。面倒がらずに、毎日少しずつエントリーして下さい。

地域限定　求人数はまず首都圏、次に名古屋、関西の順で多く、この順に就職も容易です。ですから地域限定をしない就職活動をお勧めしますが、それでも地域限定という人は以下の点を考慮して下さい。在来の大学(学部)経由の求人がありますが、これも福岡、広島、山口限定で、しかも勤務地は他地域へ及ぶケースが大半です。その他の地方の求人情報は、山口ではほとんど得られません。地元のハローワークを行くとか、縁故に頼るのでなければ地域限定での就職は難しいでしょう。

相談する　就職活動は初めて経験することばかり。分からないことも多いと思いますが、一人で悩まないで、各学部の担当係や「就職情報相談室」(共通教育棟１階)に気軽に相談してみて下さい。

4．よい就職活動をするために

技術的な話ばかりしましたが、一番大事なことは、自分にあった仕事と暮らしを見つけることです。「内定」をもらうことは目的ではないし、ブランド志向も意味はありません。根気よく探せば、適職は必ず見つかりますから、気長に地道に就職活動に取り組んで下さい。

理学部学部生の就職状況

吉川　　学
理学部　教授
理学部就職委員

就職動向

今年度の就職活動状況は、卒業予定者の約50％が就職希望者で、大学院進学希望者も50％弱存在します。大学院希望者が増加している傾向があり、理由としては、メディアでも伝えられているように不況と関係しているかも知れません。現在の状況では、特に教員、公務員希望者が増加しているというわけではなく、ただ、進学希望者が増加していることになります。

就職の内訳を見ますと、例年もっとも多いのが情報産業で、30～40％を占めています。理学部には情報産業に対応した学科もありますが、他の学科からも情報産業に就職しています。やはり、不況とはいえ、情報産業では人手不足の状態であり、これからも若い人の求人が続くものと思われます。その次に多いのが製造・サービス業で、約30％を占めています。事務系、サービス、販売、製造業に就職しています。製造業には毎年、理学部の実験系から就職しており、この分野も底堅いものがあります。教員、公務員希望者は例年20％程度いますが、なかなか内定までこぎつけるのは難しく、就職浪人となって引き続き、試験の準備をするケースが多く見受けられます。やはり、この分野は最初から浪人覚悟で、かつ１、２年生からの長期的計画の下に準備する必要があるといえます。

進路を決める時期

理学部では、３年生、４年生に対して年度初めの４月に各講座の就職委員の先生から進路、就職に関するガイダンスが行われます。３年生の秋ごろからいろいろと就職情報会社から情報が入り始め、進路について考えるようになり、各自で将来をデザインして決定することになります。就職委員としての経験からいえることは、やはり、早くから進路として就職を決定していた学生さんは、就職活動への取り組みもしっかりしていて希望の企業の内定を得やすいのではないかと思われます。もちろん、初めに進路を就職に決めていたけれども、就職活動中にいろいろと再考することにより、後になって進学に変更することは４年生になってからでも遅くはありませんが、その逆の変更はあまり良い方法とはいえません。初めは進学と決めていたが、４年生になって友人たちの就職活動に刺激を受けて急に就職に変更し、あわてて就職活動を始めてもうまくいかないと思います。理学部大学院の入試は８月にありますが、それ以前に多くの企業が採用試験を実施しているからです。また、教員、公務員希望者の中には採用試験が大学院の試験と同じころ、あるいは後にありますので、対策の一つとして進学と就職の両方の試験を受ける人もいます。ただ、進学しても状況は同じで、教員、公務員採用試験の厳しさを覚悟することが必要です。

応募の方法

以前は３年生の秋ごろ、個人に

送られてくる就職情報誌にしたがって自由応募する方法と、理学部の各講座で掲示される求人票の中から選択して学校推薦で応募する方法が一般的でした。最近では求人票にも学校推薦と自由応募の両方が記載されているものがあります。また、インターネットによる応募に人気があり、自由応募が急速に増加しています。

このような傾向は、学校推薦で応募しても内定を得るとは限らないという状況になってきたことと関連しているのかもしれません。

しかしながら、求人票は卒業生が実績をあげている企業のものが多く、その中から選択するのも一つの方法だと思います。もちろん、将来展望を夢見て卒業生のいない新規の会社に果敢に応募されることは大歓迎です。

就職活動："インターンシップの取り組みとその課題"

石川　敏三
医学部保健学科　教授
医学部保健学科キャリアデザイン委員会委員長

近年の急速な社会構造の変化や大学における卒業後を含めた教育改革などを背景に、学生の就職活動もその内容が大きく変わろうとしています。本質的には、医学・医療系の場合も他学部と違いはありませんが、医療の技術や知識の著しい進歩、コストの認識、また一方では医療事故の多発に対する教育を如何に改善するかなど大きな課題が山積しています。こうした中、学生時代に職場を体験学習する、所謂インターンシップによる効果が大きな注目を集めています。米国では1990年頃から高等学校レベルなど低年齢からも教育効果があるとして定着していますし、英国の大学でも高等教育の前に体験学習を義務付けているようです。日本では、最近になって文部科学省も体験学習のビジョンを打ち出しましたが、未だ未整備で、今後制度の確立・運用（履修単位の認定や指導体制）が進むものと思われます。本稿では、筆者がキャリアデザイン担当としてこの３年間に体験したことを基に、インターンシップの取り組みと課題について述べます。

1．今、なぜインターンシップが注目されるのか？

1）「大学と職場の新しい協力体制作りにより、社会のニーズを備えた人材が育成できる」‥‥長引く経済不況や社会構造の変化から、企業では必要とされる人材をいかに選抜し、そして育成するかが重要となりました。一方、大学では「ショッピングセンター：売り手市場」であるはずが、学生の職業意識の低下に加え、社会におけるニーズに沿った教育が十分になされてないとの理由で、就職難、つまり「買い手市場」に陥っているのが現状です。こうした中、インターンシップの強化により内定率を高く維持できている大学が多いことも事実です。従って、インターンシップで大学教官と施設の担当者が信頼、協力して人材を育てるようにすることが教育施策として重要になってきたのです。

2）「自らが実際を学ぶという教育効果がある」‥‥学習した知識を仕事に関連づけることが可能になります。インターンシップから戻ってきた学生は目を輝かせています。その多くが、講義・実習などで学んだことが職場で実際にどのようになっているのか、また自分から体験し患者とのコミュニケーションの取り方、データの迅速性、正確性等の精度管理を初めとする心がけなどを学んだようです。

3）「大学から職場へ円滑な移行が可能」‥‥労働倫理、すなわち「働く」とは学生時代と違い自分で行動決定ができず「職場の理念に基づき能力を如何に提供出来るか」が問われます。従って、常に評価されることが基本となりますから、学生はその違いをはっきりと認識する必要があります。また、将来の仕事の選択がインターンシップで身に付くでしょう。一方では、受け入れ側もその期間に人物評価が可能で、求めている人材かを見分けます。学生も希望が強くなければ他の職場を求めるでしょうから、両者にメリットがあります。雇用形態が多様化し、年俸制、契約社員、派遣社員、早期退職も取り入れられ、個人主導のキャリア形成に移行しつつあります。このことは、学生にとれば、進路の選択についてもその多様化が明確で、たとえば契約社員、フリーター、留学や進学などです。また、学生の進路選択には、インターネットの活用で情報が多すぎる嫌いや、人間関係の構築に希薄なことがあるほか、情報化が進むと採用計画の時期の早期化、長期化も起きています。

従って、こうした社会の変化の中での就職活動の変化は、自ずと指導方針の変化にも現れ、その最も効果的な指導の１つとしてインターンシップおよび研修制度の見直しに注目が集まったのです。確かに、インターンシップの重要性も明確になり教官の就職活動指導や支援に新たな転換期が訪れたと言えましょう。

2．インターンシップで何が学べるのか？

以下の３つが重要とされているようです。

1）「労働理念などを自覚させる効果がある」‥‥とくに、専門知識は未熟でも出来るだけ低学年で職場体験をすると、著しく学習意欲がわき努力目標もしっかりと定まるといわれます。自ずと学習成績は向上し付加価値も持ち、夢実現に向けて行動するようになるでしょう。

2）「適性を知る効果がある」‥‥職場で実際の業務に接すると、自分が今までに描いてきた職業観が具体的になりその体験から業務内容の向き不向きも認識できます。業務内容の選択ができます。しかし、このことは職場では「オールラウンド」で順応できる人材を求めている事実もありますので、「中でも得意なもの」をもつようにしましょう。

3）「社会での自立に向けた、とくに仕事で社会に貢献でき人生での満足を得ることへの認識が高まる」‥‥人は、誰しもボランティアばかりでは職業観が身に付くとは思っていません。正直には、「仕事への能力発揮でそれに見合う報酬を受けることで満足を得よう」とします。こうした労働と報酬、責任、使命感などが芽生え、次第に自立した人間に成長するのでしょう。インターンシップによるこれらの効果は、すでに全国の大学就職担当者会議でもしばしば討議され、概ね一致した考えになってきました。

3．インターンシップの今後の課題とは？

一般に学生は、「就職は卒業後でも出来る、フリーターでもいい」と考えがちで真剣に将来を見据えた就職意識は弱い傾向にあります。前述したように、インターンシップを強化し職業意識が高まりまた施設からの評価を高く受けると採用につながる可能性が高いと考えています。しかし、一方では以下の課題もあります。

1）「底辺の拡大を如何に計るか？」‥‥学生への周知方法、予算確保、学部全体の意識の高揚、高校との「高大連携」で教育内容の交換や教官の交流を行うと大学の取り組みを視野に入れた高校での指導が定着し、進路指導が適切になるものと考えます。教員が高校側に出向いて出前講義をし、大学紹介などを繰り返す取り組みがすでに始まっています。

2）「履修制度を柔軟にできないか？」‥‥現在では、医療施設をもたない教育機関や関東、関西の先行大学の一部ではすでに実施されています。しかし、まだ一部に過ぎずその他は企業側において教育面での受け入れ体制などが未整備な事が主な理由で単位認定には至っていません。早急に、受け入れ施設が単位を認定できる臨床教授等、契約など柔軟に制度を推進する必要があります。学生はそれにより、地元の優良で希望する施設でのインターンシップが受け入れられることになり、その選択肢は大幅に拡がります。薬剤師ではすでに定着しており、やや内容を異にするが医師の研修制度も、卒業の大学医局ではなく自分で施設を選択して研修しています。

3）「実行にはカウンセリングが必須である」‥‥学生は「なりたい」はあるが「実現に向けてのノウハウのアドバイス」を待っている。また、情報は集めてくるが個別相談で具体的に進むのでカウンセリングが必須である。しかし、インターンシップの意義や実行には熟達した担当教官による支援が必要である。独法化後には、多くの教官が指導講習会に参加したりそのノウハウと情熱を持って学生と接し、キャリアデザイン支援を継続的に強化したいものです。

4）「卒業後の成長や貢献の動向とインターンシップ教育の関連を分析する」‥‥果たして就職後に活躍する人材になり得たか？また個人的に満足した仕事ができているか？を調査分析する必要があります。インターンシップのさらなる充実によって、キャリアデザイン支援は、卒業後の年次的成長や満足度を如何にかなえてやれるかも大切です。

近い将来、国立大学は独立法人化に向かいます。間違いなく、教育評価として「社会で活躍する人材を如何に輩出できたか？」が問われるでしょう。従って、きめ細かい支援に加え、社会のニーズや卒後動向にも目を向けて指導することが重要になってきました。述べてきましたように、私はその体験から卒前教育におけるインターンシップの教育効果は期待できるものと考えています。

おわりに

「インターンシップ」の教育効果とその取り組みを中心に医学部の就職支援の取り組みやその課題について述べました。いずれにしても、社会が複雑になった今こそ、1）人を如何に育てるか？　2）高等教育のゴールとして如何に自立させ職業選択とその自己実現をさせられたか？　また、3）卒業後に社会で満足した人生を送られているか？です。そして、このことは大学の評価の１つとされています。

学生にとってそのきっかけになるであろうインターンシップの存在について、本学部の取り組みの現状と課題を述べました。最後に、キャリアデザインで最も重要なことは教官が学生一人一人を大切にし共に自己実現に向けて共感がもてることでしょう。

就職雑感

井上　克司
工学部　教授
工学部知能情報システム工学科就職担当

（1）私の就職を振り返って

私が就職活動を行ったのは、今から33年前、大阪万博が開催され、東京・大阪間に新幹線が開通した年である。就職の面接のため東京に出向いたとき、初めて新幹線を利用し、雨だれが地面に平行に走っているのを見て、その速さに感動したことを思い出します。当時は、日本の経済成長が著しい時であり、就職活動も比較的恵まれていたように思います。多くの学生は、安定雇用が期待できる大企業を志向し、高度経済成長の担い手となるべく夢を持って、就職活動に臨んでいました。団塊世代の始まりである私の同級生は、それぞれ満足のいく企業で技術者として活躍し、日本の高度経済成長を支えてきましたが、最近の不景気の中、リストラの対象になり、早期退職に追い込まれる者がかなりいるようであり、時代の流れを痛感しております。私は、企業に数年勤めた後、教職に就くという希望を持ち、それなりに準備を進めていたのが功を奏し、当時の日本電電公社への２年半の勤務の後、大学に職を得て、現在に至っております。皆様も興味をお持ちと思いますが、NHKの「プロジェクトX」という番組をよく見させていただいております。各企業が生き残りをかけて新製品の開発に取り組む姿を見て、企業勤務の厳しさを改めて感じております。もちろん、大学勤務も、企業にはない厳しさはあると思いますが、これからの国立大学の法人化を控え、これまで以上に切磋琢磨していかなければならないと思っております。

（2）就職担当として

私は、工学部の知能情報システム工学科の就職担当をさせていただいておりますが、就職担当は、旧電子工学科を含めて５度目になります。10数年前のバブルが弾ける以前は、推薦での採用がほとんどで、大部分の学生は、大学の推薦さえあれば、希望する企業に比較的たやすく内定をもらっておりました。時代は大きく変わり、昨今の不況の中、昨年と本年の学生の就職活動はかなり厳しいものになっております。一度の推薦で内定をもらえる学生は３割程度であり、推薦の意味合いも昔と違ってきております。企業は、生き残りをかけ、慎重に人材を発掘するよう努めており、基礎的な学力、人間性などを含め、総合的に優れた人物のみを採用するようになっております。特に大企業では、ジョブマッチング方式（一種の見合い方式）を採る企業が増えており、各事業部門が直接に学生と会い、学生の希望、能力、人間性などを見極め、本当に使えそうな学生のみを厳選するようになってきております。今後益々この傾向が強まるものと思われ、就職を世話する者として、学生の指導をより一層適切に行わなければならないと感じております。

最近は、自由応募での採用を考える企業が増えており、これらの企業の中には、応募から内定を出すまでに長期間をかけるところが見受けられますが、学生の精神的、経済的な負担を考慮し、迅速な対応を心掛けていただきたいと思います。

（3）学生に期待すること

就職担当として一番悲しい思いをすることは、就職活動を控え、自分の進むべき方向が見い出せないまま、就職相談に来る学生がいることです。このような状態で就職活動に臨んでも、企業に採用してもらえるはずがありません。満足のいく就職活動をするには、早い時期から自分の将来の人生設計をしっかりと立て、それなりの企業を選んでチャレンジする準備をしなければなりません。準備のし

っかりと出来た学生は、希望する企業から早々と内定通知をもらっております。企業に一度就職したら、定年まで安泰で勤められる、あるいは勤める企業は永遠に在り続けると思っている学生がいるかも知れません。現在では、会社の寿命は25年以下であると言われており、企業間の競争は益々激しくなっております。今後は、どの会社に勤めるかが重要ではなく、自分がどういう職業で身を立てていくかが重要になり、いわゆる「会社員」から「職業人」に変化していく必要があると言えると思います。そのためには、常日頃から、キャリアアップに努め、自分を生かして社会に貢献できる体制を整えておかなければならないと思います。

大学教育と就職活動

山本　晴彦
農学部　教授
生物資源環境科学科

民間企業への資料請求やインターネットで応募登録をする「エントリー」など、再来年３月に卒業する大学３年生や大学院１年生の就職活動がすでにこの年末から始まろうとしています。さらに、年明けには会社説明会や面接などの就職戦線は本格的に動き始めます。

生物資源環境科学科における学生の教育と進路

私が所属する生物資源環境科学科の学生のほぼ半数は、さらに高度な専門知識を身につけるために大学院に進学していますが、残りの半数は就職希望であり、就職活動に取り組むことになります。本学科では農業系公務員への志望が強く、国家公務員や地方公務員の採用試験が実施される５～７月に向けて３年生の時期から試験対策に取り掛かります。しかし、近年は国・県・市において行政改革の一環として組織の再編、職員の定員削減などが急速に進められており、退職者の補充も抑制され、採用者数を大きく減らすところが数多く見受けられます。このため、民間企業へ就職を希望する学生も多くなり、他学部の学生と同様に３年生の後期から企業への就職活動を開始しています。

本学科では、１年生において共通教育科目を主体に、２年生では基礎的な専門科目を履修して３年生に進級します。各教官へは３年生への進級後に配属が決定され、配属教官の指導により専門科目や実験・実習の履修が始まります。また、配属した研究室ではゼミも開始され、外書や研究論文の講読などが実施されます。３年生も後期になり順調に履修が進めば、講義や実験・実習も比較的少なくなり、自らが探究心を持って積極的に専門分野の知識や技術、計測・分析手法などを習得することが可能な時間が大幅に増えます。４年生になれば、卒業論文を本格的に取り組むことになり、自分自身が卒論テーマを決めて、実験方法や計測・分析手法を文献から検索したり先輩からのアドバイスで改良したりして、右往左往しながら指導教官の指導により卒論を進めていきます。植物や動物を扱うテーマであれば、栽培・飼育などの体験もあり、きわめて多忙ですが充実した時期に「なるはず」です。

就職活動の現実

しかし、現実はどうでしょうか。就職協定廃止の1997年以来、民間企業の採用活動は年々早くなっています。民間企業へ就職を希望する学生は、３年生の後期からR－CAPやSPIなどの適性検査の受験や対策、就職を希望する職種の選定、エントリーシートの作成に翻弄されます。年明けからは、幾つもの会社の説明会、OB訪問、面接などを、場所や時間が大きく異なるにも関わらず、積極的に活動していかなければ、「内定」を得ることが出来ないのが現状です。私が学生の頃は、１次面接から旅費が支給されたり、数日で複数の面接が重なり、旅費を二重取りする友人も見受けられ、学生にはバラ色？の就職活動でした。しかし、近年は長引く不況、構造改革、緊縮財政などにより、企業も学生の採用に慎重にならざるを得ないのか面接も2～３回では終わらないのが当たり前のようです。もちろん、説明会や面接などにかかる旅費や経費（リクルートスーツetc.）も自腹であるため、学生の金銭的負担は数十万円にも及び、それを捻出するためにアルバイトをする学生も数多くいるのが現実の姿です。また、面接日を会社から一方的に指定されたため、学生がやむを得ずゼミに参加できないことなどは日常茶飯事の出来事となっています。さらに、長期間に及ぶ就職活動により、心身にストレスを受けて体調を崩す学生も増えてきています。

もちろん、どこでも良いから就

職するぞ！と、かなりいい加減な気持ちで会社訪問や面接にトライする学生もいるかもしれませんが、早い時期から目標をはっきり持って卒業論文を進めながら就職活動に望んでいる学生が大部分であることを人事担当者には十分に理解して頂きたいものです。「優秀で即戦力になる人材をわが社に送り込んでほしい！」と言われても、就職活動の多忙化により研究室に来られない学生に対して、指導教官が優秀で即戦力になる人材を育てるための時間を費やすことは不可能なのです（研究室に学生は不在になるのですから）。この事実を、人事担当者はしっかりと認識し、学生に対して厳しさと、労わり・配慮の両方の視点を持って接していただきたいものです。

「公務員試験を振り返って」

田中　晶子
大学院人文科学研究科　修了
山口県庁　岩国県税事務所　課税課勤務

将来の自分像を描く

就職活動を始めるにあたり、まず行ったのが、自分の将来像を描いてみることです。私は大学に入学する前から漠然と地方公務員になりたいと思っており、その気持ちは大学で勉強をするうちに益々強くなっていきました。将来自分は、公務員になり、自分の生まれ育った土地でまちづくりの仕事に携わりたい、そう考えるようになりました。

将来の方向性が決まってからは、公務員試験に合格して夢をかなえることだけを考え、民間の会社訪問等は一切せず活動をしてきました。

試験勉強への取り組み

実際に試験勉強に取り組み始めたのは、大学院１年の６月からです。大学生協の開講している「公務員対策講座」に通い、基礎から少しずつ勉強を始めました。３月からは本格的に試験勉強を開始し、それと同時に広報誌やホームページ等で志望自治体の情報収集も行いました。

試験科目の中には、初めて勉強するものが多く、理解するまでに時間を要します。私はテキストを何度も読み、その後問題集を解き、同じ問題は絶対間違わずに解けるようになるまで繰り返し続けました。試験勉強中は自分がいかに公務員になりたいのかを常に念頭に置き、挫折しそうになる自分の気持ちをつなぎとめていました。

就職活動を終えて

受験生活を独りで乗り越えるのは本当に大変なことです。試験日が近づくにつれ、日に日に焦りがつのり、自分の将来への不安等で押しつぶされそうになる日もあります。

そんな時には、諸先生方や同じ目標を持って頑張っている友人と語り合ったり、外へ出かけて気分転換をしたりと、うまく気持ちを切り替えていくことが大切だと思います。

最後に、自分は本当に公務員になりたいんだという気持ちがあれば、その夢は必ずかなうと思います。意欲の点では誰にも負けていない、そこが一番大事なのではないでしょうか。

公務員を目指している皆さん頑張ってください。

あこがれの職業をめざして

田中　涼子
人文学部言語文化学科
英米語文化論コース４年

夢に向かって

旅行会社でツアーコンダクターの仕事がしたい！　これがわたしのかつてからの夢でした。大学３年の11月頃、私はこの夢を叶えたいという気持ちを胸に就職活動を始めました。まず、リクナビに登録したり、自己分析をして、なにがやりたいか、どんな仕事が向いているのか考えたりしました。旅行会社に就職したいと思う一方で、初めは業界を絞らずたくさんの会社を知ってみようと思い、英会話学校やメーカーなど、色々な会社にエントリーしました。

タフになる！

そして２月中旬頃から、会社説明会や面接に実際に参加し始めました。たくさんの人の前で自己アピールすることに緊張したり、落ちてしまった時には、就職が決まらなかったら……と不安になる時もありましたが、社会人の方の話を聞いたり、たくさんの学生から刺激を受けることによって、タフになり、自分らしさが出せるようになりました。

就活の日々

４月に入っていよいよ旅行会社の採用活動が始まり、旅行業界のいくつかの会社に絞って就職活動を続けました。実際に旅行会社で働いている人にお話を聞いたり、同じ夢を持った学生と交流するなどして積極的に行動しました。就職活動で疲れた時は、友達と話をしたり、日帰りで旅行をするなどマイペースで就職活動を続け、５月半ば頃から続けて数社から内定をいただくことができました。そして、その中でも希望であった添乗の仕事が出来る会社に就職することを決めました。

ひとことアドバイス

私が希望の業界から内定をいただけたのは、本命の業界の前に積極的にたくさんの業界を受け、たくさんの失敗の分だけ色々なことを吸収し、自分自身をしっかりア

ピールできるようになったこと、マイペースに就職活動を進めることができたからだと思います。皆さんも希望の業界の中でも、どの仕事をしたいのか、その会社に入り、その仕事を持って何をしたいかまで具体的に掘り下げて考え、諦めずに努力し続けてみてください。

成せば、成る!!

山下亜津紗
長崎県三和町立三和中学校　教諭

小学生のころから教員になることが夢であった私は、本年度の長崎県教員採用選考試験に合格し、現在、中学校で教鞭をとっています。

不景気が続く中、ますます公務員採用試験の競争倍率は高まるばかりですが、少しばかり私の「教採突破法」をお話したいと思います。

1．とにかく、先輩合格者の話を聞く！

私が、教員採用試験を受けるに当たってまず初めにやったことが「情報収集」です。教員採用試験は、基本的に教職教養、一般教養、専門教養などの筆記試験、そして最も重要な面接試験があります。筆記試験は、問題の公開を行っている県も多くなってきていますが、面接試験は経験者に話を聞くのが一番です。面接試験の中には、集団討論や集団面接、個人面接、模擬授業などさまざまあり、各自治体によって特徴があります。先輩受験者から聞いた話をもとに、面接練習を行うことは緊張をほぐしてくれ、自分の教育論を固めるのにとてもよいです。

2．とにかく、粘り強く！

私は、約半年前から勉強を始めました。一日のノルマを決めて、必ず実行していました。決して無理な量ではないノルマを設定し、休日をつくることも必要です。１日８時間机に向かうこともありましたが、「自分の夢に一歩一歩近づいている！」という実感が、私を支えていたように思います。
ある先生から言われた、「あなたを待っている子ども達がいる」という言葉を常に胸に抱いて、努力していました。現役では受からないという考えでは、合格することは出来ないと思います。そこには、自分に対する甘えがあるのですから。

3．とにかく、受験しまくる!

私は、長崎県をはじめ、横浜市、大阪府、山口県の４箇所を受験しました。出身が長崎県なので長崎県の試験日と重ならないところを調べて、受けるだけ受けました。一つの県に賭ける人が多いのですが、多くの県を受けると、様々な場面を経験することで、数をこなす毎に臨機応変に対応することが出来るようになります。移動などで体力的には疲れますが、程よい緊張感と自信が持てておすすめします。

教員に限らず、何の職業であろうが、その職業に対する強い思いがあれば必ず、あなたを必要としてくれます。成せば、成ります！

「教員採用試験」

下田　宏介
教育学部学校教育教員養成課程４年

1．入学の頃

僕は大学に入学したとは言うものの、将来に向けての明確なビジョン等は持っていませんでした。就職なんてまだ先の話だと思ってましたし、そんな面倒臭い事は考えたくもありませんでした。僕は今年の教員採用試験を受験したのですが、入学当時は本当に教師になるかどうかも、正直、怪しいところでした。「学生の本分は学ぶ事」とはよく言われますが、やはり大学生活はその自由度の高さが魅力です。とりあえず僕も就職などの事は後回しにして、まずは自分の好きな事に心血を注ぎました。

2．きっかけ

僕が教師になろうと真剣に考え始めたきっかけは、何といっても教育実習です。３度に亘る教育実習の日々は、御世辞にも楽なものとはいえませんでした。慢性的な眠気が体を支配し、食事も喉を通りません。残念ながらこの苦しさを語り尽くす事は紙面の都合上、不可能な事でありますが、そりゃもう大変でした。しかし、僕は同時にこれまで感じた事の無い充実感を覚えたのです。単純に、教師という職が「楽しい」と思いました。教師になると決めてからは、事情通の友人から情報をもらったり、採用試験に合格された先輩から問題集を頂き、ひたすら勉強する毎日を続けました。

3．「成功する者⇒努力する者」

教員採用試験は難関です。努力した人がみんな報われるとは限り

ません。何もかも我慢して、神経をすり減らしながらも、悔し涙を飲んだ先輩方も大勢いました。しかし、試験に合格した先輩方もみんなこの上なく努力した人たちばかりです。上に示した命題はそのことを指しています。この文章を読まれているみなさんも、これから幾つかの人生の岐路に立たれることと思います。その時、自分はどうあるべきか。上に示した命題の対偶を考えて頂ければ明らかになってくるのではないでしょうか。

楽しく生きる方法

田中　紀子
平成14年３月経済学部経営学科卒業
萩ケーブルネットワーク㈱

私は、長期にわたる就職活動の末、憧れだった放送の仕事に就職が決まり、現在、社会人２年目、失敗を繰り返しながら一生懸命働いています。今思い起こすと、この仕事につくまでは険しい道のりだったと思います。面接を受けては落ちを繰り返し、親やまわりの人からははやく諦めたほうが、という声もでていました。その声に負け、１度は諦めたこともありました。

しかし、１度の人生なんだから、やっぱりやりたいことをやろうと考え直し、再び就職活動を始め、今の仕事に決まりました。

実際に働き出すと、毎日が新しいことの連続で、ただ無我夢中で走りつづけている感じでした。今では、就職活動をしていたころが遠い昔のことのように感じられます。

２年目になると一人で仕事をすることが増え、自分が今まで、人に甘えていたことを痛感。ミスを連発すると、やっぱり向いてないのかなと思うこともあります。そんな時、助けてくれるのが、自分の目標であったり、夢であったりします。負けるもんか！と自分に言い聞かせ、次こそは！ともう一度立ち上がることができるのです。

就職活動はただのスタート地点にすぎません。就職をすれば、就職活動中の壁よりもっと高い壁が迫ってきます。その壁をのりこえられるかどうかは、就職活動中にどれだけ、将来の目標をもってやっていたかにかかっています。

まずは、やっていて楽しいと思えることを探してみてください。楽しいことがない人は、まだやったことのないこと、やってみたいことにチャレンジしてみてください。そこにきっと楽しいなにかがあるはずです。就職活動はあせってすると失敗します。自分がどうなりたいのかを決めてから就職活動をはじめても遅くないと思います。仕事は自分が楽しく過ごすための手段にしかすぎません。

人生は一度きり。楽しく生きるためにも、これだと思える仕事を選んでください。

自己分析に始まり自己分析に終わる

中村　佳弘
経済学部経営学科４年

「どうにかなるさ」と少々楽観的な考えから始めた就職活動ですが、やはりそう思い通りにならないというのが活動を終えての感想です。頭の中では４月、５月で内定をもらうぞと勝手に皮算用をしていたのですが、実際始めてみると、そんな甘い考えではダメだということがすぐ分かりました。

就職活動は自己分析に始まり自己分析に終わるといっても過言ではありません。自分は何者なのか、どんな性格でどんな考えを持っているのか、就職するには自分をよく分かっていないと話になりません。ではなぜ自己分析が必要になるかというとこれができていないとエントリーシートや履歴書はうまく書けない、面接でもうまく答えることができないからです。当然ですが、自分を売り込まないと企業は採ってくれません。私も就職活動の最初の方は自己分析も満足にしていませんでした。当然のごとく企業側からは不採用ということになります。これではいかんとその後は自己分析に力を入れるようになりました。そうすると自分の性格の良い点と悪い点というのがよく分かるようになります。エントリーシートや履歴書、面接でもそうですが、これが武器にな

ることが多いと思います。自分の良い点を積極的にアピールするのは当然ですが、悪い点もアピールに変えれるようになると道が開けることがあります。それくらいの余裕を持つと面接でも自然体でのぞめて結果的に良い方向に向かうと思います。

まわりが内定を手にして焦る気持ちも生まれるかもしれませんが、内定の早い遅いは問題では無いと思います。なかには早すぎる内定で迷う人もいますし、遅い人でも自分自身で納得して後悔をすることなく気持ちよく就職活動を終える人もいます。就職してしまえば内定の早い遅いは問題になりません。辛いこともあると思いますが自分で納得できるように最後まであきらめることなく就職活動がんばってください

私の就職活動

坂口　隆昭
石油公団　探鉱部（予定）
平成15年３月大学院理工学研究科
化学・地球科学専攻修了

興味のままに

就職活動では、これから自分自身が就職したいと思う分野を決めることが重要ではないかと思います。現代では、一生一つの会社と付き合うというのは合わないかもしれませんが、就職は自分の人生のうちで長い時間にわたって関わります。その時間を楽しく過ごしたいとは思いませんか？　私は、大学では、地球科学を専攻していました。私にとってこの分野は、我を忘れるほど夢中にさせてくれる魅力があり、非常に面白いものでした。そのような気持ちから、就職においても「地球科学」という分野に携わっていきたいと思い、現在「石油探鉱」という石油を地下から探し出す仕事に就職しました。私は就職してみて、今素直に興味のままに身を任せてよかったと実感しています。仕事をしていて、何事にも興味を持つことができ、常に新鮮な気持ちで居られることができます。何よりも感じることは、楽しいと思えることです。同じ仕事をするなら自ら楽しいと思える方向に進むべきだと思います。

就職試験

私は、就職試験の面接を体験して、何とかして自分の意見を伝えようする気持ちが大切だと感じました。このことは、面接だけでなく、これからの仕事の中でも必要なことだと思います。面接では、かなり自分の意見を曲げられる意見を投げつけられます。自分の伝えたいことをしっかり持っているつもりでも質問の度に二転三転と主旨が歪まされます。それ故、面接後惨敗感でいっぱいになります。面接官はその揺さぶりをかけるプロです。だからといって、自分のスタイルを崩してはいけません。素直で、自分のスタイルの中で、相手に伝えることが大切です。そのため、本命を受ける前に何回か経験することをお薦めしたいと思います。これから就職活動をされる皆さん、野望をもってがんばってください。

自分の本当の姿を見つけること

鶴　　健司
理学部自然情報科学科４年

将来を考える

この世の中には数え切れないほどのたくさんの企業が存在しています。その中から自分の進みたい道を決めることはとても困難なことだと思います。私の場合、まず自分のこれからの将来において何を重要にするかを考えました。人によってその重要視するものは異なると思います。企業の将来性、雰囲気、仕事内容など多くの重要とされるであろう項目があります。しかし、それらは企業のホームページや就職情報誌だけでは分かりません。出来る限りその企業や仕事というものについて知り得るためには、自ら積極的に多くの企業に触れ、自分自身の肌で感じることが大切だと思います。

自己ＰＲ

また、企業で最も問われる自己ＰＲというものもなかなか難しいものではないかと思います。突然、「自己ＰＲをして下さい。」と言われても、すぐに自分なりの完璧な答えを見つけることは容易ではないと思います。私たち一人一人のこれまで生きてきた中での経験は異なるはずです。その経験の中から具体例を挙げられる自分の強みや長所を見つけることが重要な第

一歩だと思います。面接官を説得させるためにも、具体例を付け加えた自己ＰＲを行なえることが必要だと思います。

私と就職活動

私にとっての就職活動とは、自分自身を見つめなおすことが出来た良い機会だったと思っています。私はこれまでの人生の中で、自分というものがどういう人間で、どのような強みや弱みがあって、どのような将来のプランを持っているのか、などといったことを深く考えたことはありませんでした。しかし、一つ一つ「自分」について考えることにより、自分のやりたいこと、それに合った仕事を見つけることが出来ました。そして、それによりその仕事ができる業界や企業について研究し、その企業への志望動機を整理していきました。人によって就職活動の方法は違うと思いますが、私は自分の本当の姿を見つけることが出来た人が良い就職活動ができると考えています。

インターンシップから学んだ職業意識

大山　恵実
平成14年３月山口大学医療技術短期大学部
衛生技術学科卒業
ALOKA㈱鹿児島営業所

夏休みの時期になると、就職活動の一環で行った研修（インターンシップに準じた体験学習）のことを思い出します。一般に、病院など医療機関の採用計画では、研修時の「意欲、コミュニケーションや礼儀」が重要視され、いわば長期の面接です。私は、失敗できないプレッシャーと知識不足からくる不安による緊張の中、あっという間に終わり、最後に技師さんにお礼を言って回ったことだけは覚えています。この体験から、早めの準備に勝る対策は無い事や「就職なんてまだ先のこと」という意識を変えることから就職活動が始まることを認識しました。しかし、短期間でも研修では実際にその病院の雰囲気を肌で感じ取ることができます。特に就職を希望している場合、病院・企業の理念や、求められている人物像を知り、業務内容に対する適性を判断するなど、得るものは多いです。従って、１）失敗を恐れず「やる気」を示し、２）不明なことは質問して学び、３）礼儀も心掛けて研修に臨むことが大切だと思います。

私は、医療関連の企業へ就職しました。企業理念もしっかり教育され、社内研修のみならず関連の医学学会への参加も頻回に機会を与えられています。就職して日が浅いのですが、「常に自己革新をし、また周囲と調和すること」など大切な点が多くあることに気づかされました。学生時代は、提供される講義・実習をこなす受動的態度でしたが、仕事に就くと常に評価される立場にあり、自己学習で修得し問題解決もしなければならず、「やる気」の有無で学ぶことのできる量に差が生じます。現状に満足せず、常に課題を見つけ自ら学んでいく態度の必要性を特に感じます。

「就職活動」の延長には社会に出て働く自分がいます。その自分を見据えて学生時代を過ごせるといいと思います。そのために、１）自分をじっくり見つめ、２）職業の選択肢は多数ありますので、自分の特性を発揮できる場所をしっかり探し、３）「どんな社会人になりたいか」具体的なイメージを持つ。そうすれば努力もしやすく、結果としてそれが「就職活動の柱」になると思います。

「私の就職活動」

山岡　健一
平成10年３月大学院理工学研究科
知能情報システム工学専攻修了
TIS株式会社
産業第１事業部　PKI推進部

「システムエンジニア（SE）」と「プログラマー（PG）」

SEとPGの仕事の違いを知っていますか？乱暴な分け方ですが、SEは、お客様とPGの間に立ちお客様の意図している事をPGに伝える人で、PGは、SEから渡された設計書通りのプログラムを作成する人です。IT業界を目指す多くの人はPGを目指します。自分も味わった事がありますが、プログラムを記述してシステムが思い通りに動いた時の感動は他では得難いものだからだと思います。

求められている人材

今のIT業界で求められているのは「SE」です。PGは、インド、中国等で、たくさん人材が集まってくるからです。そして、システムを構築している現場で、「SE」に求められる最も重要な能力は、コミュニケーション能力です。2年前、求人に現場の声を反映させるということで、学生には1次面接となるグループ面接の面接官を行ったことがあります。その時の観点で重要視した点は、他の学生と適度なコミュニケーションが取れているか、一緒に働きたいと思える人かという点で、いくら他の成績が良くてもそれらが不足していればその人の評価は高くなりませんでした。

学生に求めること

まず、現時点で自分のやりたいことを明確にして、社会人になり、それを実現するという気持ち、イメージを持つことが重要です。そして、多くの人と話をして自分の考えを正確に伝えられると言うことが必要です。それらが出来れば、会社に選ばれる自分ではなく会社を選んでいる自分になれるはずです。

肌で感じた就職活動

安東　克真
大学院理工学研究科
知能情報システム工学専攻
修士課程２年

本当の就職活動

就職サイトに登録して何となく名の通った企業にエントリーする…そんな就職活動をしていた私は、ある就職関係の本を読んだときに自分が内定に近づいていない事に気が付きました。エントリーすることが就職活動ではなく、「何をしたいか」「何ができるか」「どうなりたいか」「何をしてきたか」自分が納得のいくまで自分に尋ねる、それが就職活動の大部分を占めると知りました。少しでも早くこのことに気付いたことが志望企業への内定につながったと思っています。就職活動は自分のヤリタイコトを探す人生最大のチャンスだと思います。この機会に自分の将来のビジョンを鮮明に描いておくと、極上の人生を送れるはずです。

情報収集

企業を選ぶ上で重要となってくるのが情報です。私たちが企業について知ることができる情報は就職サイトや会社のホームページ、パンフレットだけではありません。しかも、そんな情報は会社の良い所しか書いていないものです。その業界のことが知りたければその業界の人に、その会社のことが知りたければその会社の人に直接話を聞く、それが一番信頼できる情報だと思います。私は卒業された研究室の先輩方に連絡をとり、業界の動向や会社の話などの情報をいただきました。私の場合は研究室の先輩でしたが、どんな繋がりを使ってでも手に入る情報はあらゆる手段を使って集めるべきだと思います。

研究室にて（中央が筆者）

意識の違い

学校推薦という制度がある工学部に限ってかもしれませんが、就職に対する意識が低いように感じます。学生、就職担当、含め全体的に「推薦があるから大丈夫」といった楽天的な考えが根強くあります。もちろん推薦は一般選考に比べて有利ですが、安易な考えで面接を受けるとかなりの確率で落ちます。他大学では３年生の夏休みから企業にインターンシップに行っていたり，OB訪問をしていたりと就職活動の開始が早く、３年生の時から就職への意識をしっかりと持っているようです。私は１１月から就職活動を始めましたが、スタートが遅かったと感じています。周りに流されず、自分が一番にスタートを切る気持ちで臨むといいと思います。

就職活動を振り返って感じたこと

小川　孝行
平成15年３月大学院農学研究科修了
日本肥糧㈱商品開発部

本来ならば私よりももっと就職活動を熱心に行った方の執筆が皆さんのお役に立つのでしょうけれども、私が就職活動を通じて感じたこと考えたことをお伝えすることで、少しでも皆さんの就職活動のお役に立てればと思い執筆致しました。

自分がやりたいことを明確に

まず、自分がどのような職業に就きたいのかを明確にし、絶対に

この職業に就くんだという気持ちを持つことです。これが出来ていれば困難なことがあっても乗り越えられると思います。就職活動中、私は何度も落とされて落ち込みそうになりました。しかし、自分が就きたい仕事があるから頑張ることが出来ました。

理系の方は特に自分の専攻分野の業種だけに絞りがちだと思いますが、専攻分野以外の業種の企業も見てみると視野が広がっておもしろいかもしれません。中には異分野の人を欲しがっている企業もあったりします。

インターネットを活用すること

より多くの企業を検索したければ単独の就職サイトだけでなく、複数使用することをお勧めします。また、就職サイトのみならずインターネットの検索サイトを用いて企業のホームページを検索することもお勧めです。最近では数多くの企業がホームページを通じて採用の案内を行っています。

理系の方へ

特に理系の方は特に自分の専門を生かして就職される方が多いと思います。会社に入ると自分の専門以外の知識も必要となることがあります。だから大学の時に幅広く学んで知識を広げることをお勧めします。別に完璧にマスターする必要はないと思います。ただ、その知識が必要となった時にどの辺を再勉強すればいいのかがわかる程度でいいと思います。

最後に

就職活動は決して楽ではないです。途中、不安になったり落ち込みそうになったりするかもしれません。けれど自分の進みたい道があるのならば屈せずに立ち向かって下さい。

私の就職活動

森脇　裕美
農学研究科　生物資源科学専攻
食品化学研究室
修士課程２年

現実は…。

私は専門が食品化学ということもあって、就職先は食品会社以外全く頭にありませんでした。「早く就職活動を始めるに越したことはない」という先輩からのアドバイスを受け、11月頃からエントリーシート作成の練習や就職活動の進め方の情報を集め始めました。当時は、「なんとかなるだろう」と軽く考えていましたが、いざ始まってみると、応募してもエントリーシートの段階で不採用であったり、試験・面接と進んだもののほぼ全ての会社から不採用通知を受け取るのが現実でした。

あきらめず挑戦

4月に入ってくると、「自分のどこに落ち度があるのだろう」「何をしたら受かるのだろう」と、落ち込み悩み続ける毎日でした。それでも、どんな形でも食品会社で研究をしたいという私の思いは強く、募集をしていない会社に連絡を取って採用を検討してもらったり、派遣会社に登録して仕事を探したりしました。その結果、自ら連絡を取り、会ってもらえるように掛け合った、ある食品会社から採用してもらうことが出来ました。この成果は、就職活動に対して受身ではなく、自分から積極的に取り組む姿勢が評価されたのだと感じました。

就職活動を終えて

就職活動は、つらいことや苦しいことの繰り返しであったのは事実ですが、自分自身の性格、考え、そして将来についてここまで真剣に真正面から見つめて考える機会は今までにありませんでした。そのような意味でも、この期間は自分の人生において必要な時間だと考え、徹底的に迷い、悩むことにしました。そして出した結論には心から自信を持つことが出来、自分に自信が生まれることで成長できたと思います。これから就職活動を始める皆さんにも、大いに迷ったり悩んだりして、自分にとってプラスとなる機会にして欲しいです。

TOPICS

附属光小学校のホームページ

子どもたちのふれあいの場として
～附属光小学校のホームページの歩み～

赤川　雅生　教育学部附属光小学校　情報教育担当

突然のお知らせ

ある日、学校に１通のメールが届きました。それは、本校のホームページが県代表校として内定したというものでした。まさか、本校のホームページが、そんな評価を受けようとは…とても驚きました。

子どもたちのために

本校にホームページが開設されたのは、1998年のことです。子どもたちの詩やイラスト、記事など、子どもたちのページを充実させることをめざしていました。それは、**ホームページから子ども同士の交流が起こること**を教師が願ったからです。自分たちの作品がホームページから世界へ発信されているということに、子どもたちは喜んだことでしょう。また、ホームページで互いの作品にふれ合うことで、よいところを認め合ったり新たな目標をもち、作品を作ったりする姿も見られるようになりました。

本校にコンピュータが初めて導入された当初から、主に使うのは、子どもたちという視点に立ち、各教室から導入されました。そして、1996年メディアルームが開設されました。そのときからメディアルームは、休み時間や放課後に開放され、子どもたちが自由に使える環境でした。小学校には１年生から６年生までいるので、異学年がメディアルームで自由に活動するなかで、操作が分からない友達に教え合う雰囲気が生まれ、それは現在でも生き続けています。

コンピュータ委員会の子供達

運動会のNEWSのページを作成中です

そんな自由な活動の中で、ホームページは、いつでも誰もが目にすることができるデジタル展示場のような存在です。コンピュータを使って描いたイラストや詩を見て

「これどうやってかいたのかな？」

「こんな作品をぼくも作ってみたいな」

「５年生になったらこんなに上手にできるようになるのかな」

子どもたちは、いろいろな思いを抱いていったと考えます。

また、本校を卒業していった子どもが、過去の自分たちの作品を見に来たり、自分の後輩にあたる小学生からの相談を掲示板で受けたりしています。「ホームページから交流が起こるように」という教師の願いは、このような先輩・後輩とのつながりを深めることができるという形で、身を結んでいると考えます。

ふれあいの場として

県代表校に選ばれるなんて、そんなつもりで始

めたわけではなかったのですが、選ばれたことは、子どもたちにとっても教師にとってもとても励みになります。現在、ホームページ作成に直接かかわっているのは、コンピュータ委員会の子どもたちです。学校の行事を自分たちで情報収集してNEWSとしてのせる活動の他、コンピュータを生かしたいろいろな企画をたてて、それをホームページを使って表現することを模索しています。

これからも、コンピュータを通して子どもたちがかかわり合いを深めていけるように、子どもたちを支援したり、環境を整えていきたいと考えています。そして、その一環として、ホームページの更なる活用方法についても模索し、新たなふれあいの場として生かしていきたいと思います。

日韓学生交流

山口大学経済学部と韓国仁荷大学校国際通商学部

横田　伸子　経済学部国際経済学科　教授

学生が主役の日韓交流

去る７月28日～31日に、山口大学経済学部と韓国仁荷大学校国際通商学部学生による日韓学生交流が山口大学経済学部主催で行われました。３日間で、日韓学生セミナー『山口と韓国の地域間交流活性化に向けて』、山口歴史探訪、マツダ自動車防府工場見学、親睦会等の行事がギュウギュウに詰まっていましたが、結果としては密度の濃い充実したものとなりました。仁荷大学校国際通商学部からは、日本研究会顧問の金雄熙（きむ・うんひ）教授に引率されて、学部学生10人、大学院生３人が参加しました。

一方、山口大学経済学部では、韓国や東アジアの社会経済に関心のある学生が中心になって日韓学生交流実行委員会を組織し、韓国側と緊密に連絡を取り合いながら、一貫して「学生が主役の、手作りの日韓交流の創造」を目指しました。これは、肩肘張らずに自然体で普段着のままでもできる、新しい大学交流や地域交流のあり方を示唆してくれました。試行錯誤の連続だった準備の模様については、山口大学と仁荷大学双方の意思疎通を図るなどの活躍をした仁荷大学からの交換留学生、姜閏淑（かん・ゆんすく）さんの「私の日本留学記」（経済学部『EAST ASIAN FORUM』13号）を是非御一読下さい。

日韓学生セミナー

さて、この度の日韓学生交流のメイン・イベントは、何といっても日韓学生セミナーでした。『山口と韓国の地域間交流活性化に向けて』という、幾分堅苦しいタイトルになったのは、山口を発信地にして新しい東アジア交流の流れを創っていこうという思いが込められていたからです。ともすれば目が中央に向けられがちな山口にあって、地域に軸足をおき、自分たちの身近な生活からの目線で東アジア、あるいは韓国を見つめ直そうというねらいを前面に出そうとしたものです。

TOPICS

歴史と地域に根ざした日韓交流を目指して

一方、山口大学側の報告の一つは、山口地域と韓国の交流関係を歴史的に丹念に追い、これを通じて将来を展望しようとするものでした。古く大内氏の時代から、12回にのぼる朝鮮通信使の往来があったり、朝鮮人漂着民に対して長州藩を中心に手厚い保護を与えた江戸時代にいたるまで、約500年の長きに亘って山口地域は、日本と朝鮮との善隣外交の象徴的な位置にありました。しかし一転して、近代以降、第二次世界大戦の敗戦まで、山口は日本の朝鮮や大陸進出の一つの拠点となっていきます。こうした歴史は、自分たちの生活の場である山口を舞台に考えて初めて、リアリティーをもって、あるいは新鮮な驚きをもって学生達の心に響いたようです。

第２報告では、この第１報告を受けて、実際に東アジアで日韓両国がどのような役割を担うべきなのかについて、経済的な側面から、具体的には韓日米の電子産業の生産ネットワークの実証分析をもとに問題提起が行われました。第２報告に非常に刺激を受けられた金雄熙先生が、今度は来年２月に山口大学の学生が仁荷大学を訪れる時、半導体企業の工場見学をアレンジすることを約束して下さいました。いずれにせよ、準備した５時間があっという間に過ぎて行き、お互い語るべきことが多すぎて時間が足りないくらいでした。

韓国の大学生の日本に対する関心の高さ

７月29日の午前10時から午後３時の約５時間にわたって、山口大学大学会館において、山口大学及び仁荷大学の学生・教職員、一般市民、それに山口県庁の国際交流担当の方など約60人を集めて、日韓合わせて四つの報告をもとに活発な意見交換が行われました。仁荷大学の二つの報告では、仁荷大学と日本研究会の活動の紹介、仁荷大学のある、韓国最大の京仁工業地帯の一翼をなす仁川（いんちょん）と山口との地域間交流を活性化させるための提案がなされましたが、私達は何よりも韓国の学生の日本に対する関心の高さに驚かされもし、また、あるがままの日本を知ろうとする真摯な姿勢に深い感銘を受けました。ちなみに、来山した仁荷大学の学生の半数は１年生でしたが、報告はすべて日本語で行われました。これにひきかえ、東アジア重視を唱いながらも、山口大学における東アジアの言語教育がいかに実用性に欠け、脆弱であるかが図らずも浮き彫りにされた一幕でした。その他、とくに興味深かったのは、仁荷大学では学生が起業するにあたって、単に机上の教育だけでなく、実際に財政的にも援助しようという制度が確立していることでした。1960年代以来ダイナミックな経済成長を続ける韓国の活力の源を、このような、若い力に積極果敢に投資して出るような大学の方針にも垣間見る思いでした。

ホーム・ステイ

この時間不足を埋めたのが、山口大学学生の下宿での３泊４日のホーム・ステイであったことを最後に付け加えておきます。日本の学生はほとんど韓国語が話せず、当初は大変無謀な計画であるように思われましたが、短い間であっても生活を共にし、不自由な言語環境のなかでお互い相手にわかってもらおうと最大限の努力をした結果、むしろ心情的に深く理解し合い、結びつきを強めることができたといえましょう。

TOPICS

男女共同参画

『山口大学における男女共同参画推進のための提言2002年度版』発行される

横田　伸子　イコール・パートナーシップ委員会　男女共同参画WG座長

山口大学イコールパートナーシップ委員会から『山口大学における男女共同参画推進のための提言2002年度版』が発行されました。2002年度版は、予算の関係上、山口大学の構成員のみなさんに一人一冊ずつ行き渡りませんので、この場をお借りして内容について簡単にお知らせしようと思います。もっと詳しくお知りになりたい方は、各部局の主要部署に配布されておりますので、それを直接ご覧になるか、イコール・パートナーシップ委員会のホームページの『提言』にアクセスしてみて下さい。

「男女共同参画」とは何か？

『提言』を紹介する前に、「男女共同参画」とは何なのかについて説明したいと思います。イコール・パートナーシップ委員会による山口大学内での意識調査では、「男女共同参画社会という言葉を知っていますか」という問いに対して、回答者の60.5％もの人が「知らない」かあるいは、「聞いたことはあるがよくわからない」と答えています。これは、山口大学での男女共同参画に対する認知度がいかに低いかをよく物語る数字です。

日本では、1999年に男女共同参画社会基本法が成立しました。この法律の理念は、男女という性別にとらわれることなく、一人一人の個性や人権が尊重される、男女平等な社会を創り出そうとするものです。男女共同参画社会では、すべての人がかけがえのない個人として大切にされなければならないのですから、セクシャル・ハラスメントや性別によるいかなる差別も決して許されません。もちろん、教育や雇用の場である大学社会でも「男女共同参画社会」の実現が目指されなければなりません。

『提言』の構成

そこで、イコール・パートナーシップ委員会では、山口大学において「男女共同参画」がどの程度浸透し、実現されているのかを様々な方面から調査し、問題点を浮き彫りにし、大学の中だけでなく地域社会に対しても発信していこうと、2001年度から『山口大学における男女共同参画推進のための提言』を発行しています。

2002年度の『提言』の構成は、Ⅰ．山口大学における男女共同参画の現状に関する統計的分析、Ⅱ．各部局での男女共同参画推進のための取り組みに対する部局長へのアンケート調査の結果、Ⅲ．山口大学における男女共同参画に関する意識調査、Ⅳ．山口大学における男女共同参画を推進するための提言となっています。以下、簡単に各章で気のついたところ、特徴的な点などを見ていきましょう。

統計から見た山口大学の男女共同参画状況

教職員、学生、その他と分けて山口大学の男女共同参画状況を統計を通して分析しました。教員については、女性教員の比率が10.5％と低く、さらに、助教授、教授と職階が上になるほど女性比率がどんどん落ちているのが特徴です。とくに、この傾向は理工系で顕著です。一方、学生の女性比率は、理工系、文科系を問わず最近10年の間に急速に高まっており、教員比率とのアンバランスがますます拡がっています。

こうした現状と連関しているのか、山口大学における女性学、ジェンダー学関連授業はきわめて手薄です。とりわけ、大学教育の基礎をなす共通教育科目では、ジェンダー関連科目は2002年度には１科目しか開講されておらず、男女共同参画を目指す教育が行われているとは到底言い難い状況です。

一方、行政職職員については、ここ５～６年の間でようやく係長・専門職員に昇任する女性が出始めていますが、2002年で女性比率は10.3％とごく低いままです。また、課長補佐・専門員、課長以上に昇任できる女性はこれまでの18年間皆無

に近かったのが現状です。ただし、2003年度には女性を登用しようという目立った動きが出ており、こうした意識改革が一時的なものに終わるのではなく、継続されることが期待されます。

部局長に聞きました！

上のような状況に対して、各部局がどのような取り組みをし、部局長が将来も含めてどのように考えているのかアンケート調査を行いました。この結果、30人の部局長にアンケートを依頼したところ20人、3分の2の方から回答をいただきました。

とくに、女性教職員の人数に関する質問には、回答した部局のすべてが女性教員の数が少ないと考え、また、多数が係長以上のポストへの女性の登用が少ないと認識しているのにもかかわらず、一部学部のアクション・プランを除いては、具体的な改善策が示されていないのが現状です。

男女共同参画に対する意識の低さ

さらに、2002年度の『提言』では、任意で山口大学の教職員2,297人、学生2,680人に対して、男女共同参画に関する意識調査を行い、3,260人(66%)の回答を得ました。先にも触れたように約６割の人が男女共同参画についてよく知らないと答え、とりわけ女性ではその数字は約７割にものぼり、残念なことに、山口大学における男女共同参画に対する意識の低さを表す結果となりました。今回の調査では、男女共同参画推進のための制度やシステムの整備だけでなく、地域をも巻き込んだ啓蒙・啓発活動がいかに重要であるかが浮き彫りになりました。

イコール・パートナーシップ委員会の役割

このように、山口大学では男女共同参画社会実現に向けての動きがまだ緒についたばかりで、様々なプランや方策がまだ試行錯誤の段階にあると考えられます。『提言』では、上のような問題点の是正とともに、ポジティヴ・アクションの採用、性的差別を受けた場合に不服を申し立てる制度（オンブズパーソン制度）の導入、啓蒙・啓発活動の必要などの積極的な制度改善を提案しています。私たち、イコール・パートナーシップ委員会は、これらが今後どのように実を結んでいくのかを厳しく見守り、問題点を探り、引き続き提言を行い、大学だけでなく地域の男女共同参画社会実現のためにも努力していく所存です。

国際交流

タイ２大学への海外研修報告

塚原　正人　医学部　教授　保健学科学科長

背景・目的

山口大学医学部保健学科では、保健・医療の分野において、真理を探求し、人類の幸福と発展に資する知識・技術を「発見し」、「はぐくみ」、「かたちにする」ことを基本理念としています。五つの具体的目標の一つに「医療の国際化に対応できる人材」の育成を掲げています。この目標達成のための複数の国際化プロジェクトのひとつとして

TOPICS

筆者：前列左から４番目

海外の交流校と積極的に学生の相互訪問および学術交流を行っています。本年８月３日～７日、韓国梨花大学の学生17名、教官２名が本学を訪問したのに続き、８月26日～９月４日、タイの交流校であるチェンマイ大学およびボロマジョナニ看護大学ノバラトバジラ校(BCNNV; Boromarajonani College of Nursing Napparat Vajira）を訪問し、学生の交流を行いました。

内　　容

看護学専攻の６名、検査技術学専攻の３名および教官３名の計12名が８月26日～30日の５日間チェンマイ大学を、８月31日～９月３日の４日間バンコクにあるボロマジョナニ看護大学ノバラトバジラ校を訪問しました。チェンマイ大学は山口大学の交流校でもあり、チェンマイはバンコクから空路１時間のタイ北部に位置するかってランナ王朝が栄えた人口200万人の都市です。チェンマイ大学では昨年２月、タイ５大学の使節団の一員として来学した副学長のアニュマンラジトン氏を表敬訪問しました。「看護カリキュラムと看護教育」、「タイのヘルスケアシステム」、「タイの文化と宗教」についての講義を受け、タイについての理解を深めた後に、実際に３次医療を提供するチェンマイ大学病院訪問と１次医療の地区病院および従来から行われているマッサージや薬草を用いる医療を見学し、医療の質の差を比較することができました。勉学の合間の観光ではDoi　Suthep寺院を見学するとともにランナ王朝から伝承されてきた食物と芸能を堪能することができました。

バンコクではボロマジョナニ看護大学ノバラトバジラ校を訪問しました。タイ公衆衛生省訪問では、公衆衛生省管轄32大学の統括責任者であるウオンコンカテップ氏からタイの看護界の実情、歴史、現在進行中の医療改革の骨子、修士･博士課程への取り組みなどについての説明を受け、それに対して質疑応答を行いました。バムラスナラドーン研究所のAIDS患者病棟では、HIV患者の免疫学的および分子遺伝学的スクリーニング法の実際について学んだ後、実際の患者さんを観察するとともに、看護ケアの実態を見学しました。マヒドール大学熱帯医学研究所ではマラリア、デング熱などの熱帯病についての講義を受けた後、実際に患者さんを観察し、日本では経験できない医療体験をしました。またチェンマイと同様タイ伝統医療施設を見学し、その歴史、概念についての講義を受けました。観光では旧都アユタヤ、大宮殿、ゾウ園、ヘビ園などタイ特有の場所を訪れ、いず

れにおいても大いなる感動を受けました。両大学を去るにあたって催されたお別れパーティでは参加学生が日本とタイの文化を紹介しあって、同じアジアの同胞としての交流を深めました。

研修を終えて

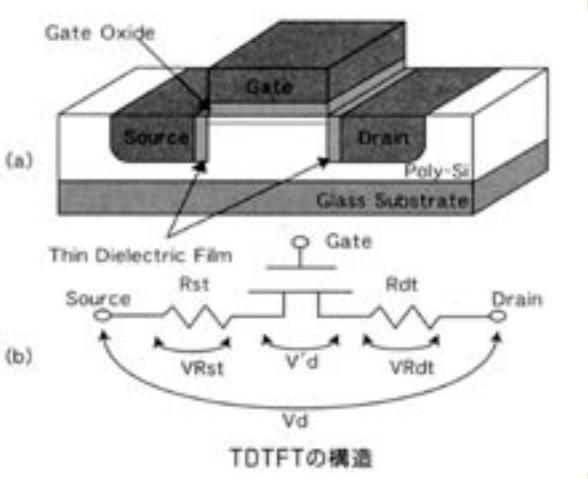
医療研修と学生同士の交流を通して、学生が異文化理解を深め、国際感覚を身につけ、英語実践をとおして友情を育む貴重な機会を体験することができました。今回の訪問交流が参加者にとって大変有意義であったことは別れの際に両国の学生が抱き合って涙を流しながら別れを惜しむとともに、将来の再会を約束していた姿がなによりも物語っています。保健学科としても、今後このような国際交流を積極的に推進していきたいと考えています。

研究最先端

世界初のナノテクノロジー・オン・パネル開発推進

松尾　直人　現姫路工業大学教授（元山口大学工学部電気電子工学科助教授）

山口大学工学部　電気電子工学科　サブナノデバイス集積化物理研究室（リーダー＝松尾直人助教授）は、世界初のナノテクノロジー・オン・パネルの開発に着手、フレキシブルで高性能なシステムディスプレイを実現すべく、エキシマレーザーアニーリングによる低温多結晶シリコン結晶成長の研究、さらには新提案のTFTの実証などに総力を結集している。



TDTFTの構造

同研究室が提唱するナノテクノロジー・オン・パネル（NOP）はプラスチック等のフレキシブル基盤の上にタッチパネル付きの有機EL、またはTFT液晶を搭載し、その上に新構造のトンネリングダイエレクトリック（TD）TFTをつくりこむというもの。画素周辺にはDRAM、SRAM、MPUなどの基本半導体およびディスプレイドライバー回路（カーボンナノチューブ配線と新規カーボンナノチューブトランジスタ）を配置し、フレキシブルなディスプレイの上に高性能なシステムをすべて埋め込んでしまうため、次世代の高付加価値かつ画期的軽薄短小の電子機器を実現できるという。カーボンナノチューブを応用したディスプレイデバイスとしては既にFED（フィールド・エミッション・ディスプレイ）が登場しているが、システム・オン・パネル全体の中にナノテクノロジーを応用していくのは世界初の試みとなる。

同研究室を率いるリーダーの松尾直人助教授は京都大学工学部金属加工学科の出身で、固体物理の世界的権威であった高村仁一教授の薫陶を受け、その後、松下電子工業、松下電器産業半導体研究センターでDRAMなどの各種LSIの研究開発に注力。半導体デバイスの物性、材料、プロセス、装置に至るまで広範囲な研究活動を積み重ねてきた。八〇年代後半には、早くもDRAMキャパシタにおいて数ナノメータの電極突起での電界集中が量子

力学的トンネリングを活性にする現象を発見し、いわば今日の“ナノテク”を先取りしていたという。

この頃、松尾氏はLSIの限界性に気づき、トランジスタのチャネル長の問題を解決すべく、SRTMOST（シリコン共鳴トンネルMOSトランジスタ）という新たなLSIトランジスタ構造を考案する。

「チャネルの両端に誘電体極薄膜を配置すれば、LSIトランジスタの物理限界を打ち破れると考えた。この基本アイデアが、SRTMOSTあるいはそれに続くTDTFTの原点だった。」（松尾氏）

九四年二月、松尾氏は山口大学助教授に就任、SRTMOSTの概念を発展させる一方で、関西の大手半導体メーカーと共同研究を推進し、低温ポリシリコンTFTの再結晶化アニールに関するテクノロジーを確立していく。さらに幸運なことは、この分野の重鎮である教授から研究室にエキシマレーザー（ラムダフィジック製）が寄贈され、開発促進の“宝物”となっていったことだ。

こうした多岐に渡る研究成果の蓄積の上で、同研究室は現在、総力をあげて、NOPの開発に取り組んでいる。このコア技術となるのは、やはり松尾助教授考案のTDTFTで、これはSRTMOSTの構造をTFTに応用したもので、通常のTFTはオフ電流が大きいことがボトルネックであるが、このTDTFTはオフ電流がTFTに比べ数桁小さくなるという特徴を持つ。さらにディスプレイドライバー回路についてはカーボンナノチューブを応用。通常はトランジスタ活性層のみをカーボンナノチューブとし、残る半分は金属で処理するが、松尾氏考案のモデルは電極すべてをカーボンナノチューブとすることで、飛躍的な効果が現れるという。

「このNOPアイデアは、現在、様々なところに波紋を広げている。しかし、NOP実現のためには、SRTMOST、光トランジスター、新ボトムアッププロセス、エキシマレーザー新技術、カーボンナノチューブそのものの研究など多くの課題が山積みしている。しかし、私たちは、数年のうちにもこれをプロトタイプの実デバイスとして完成する意気込みだ。」（松尾氏）

デバイス製造のための先進的なアプローチとして松尾氏はイギリスのケンブリッジ大学の研究室で、暫くの間、研究活動することも決めている。NOPは、多くのシステム機能を一つのディスプレイ上につくりこみ、かつ画素以外の面積は従来比１／1000にできるという画期的なアイデアであり、日本発の“新デバイス”として多くの期待を荷っていくことになりそうだ。

松尾　直人

昭和53年京都大学工学部卒、昭和55年京都大学大学院修士過程終了、平成５年京都大学論文博士（工学）。平成４～５年京都大学研究生、山口大学非常勤講師。昭和55年～平成４年松下電器産業㈱半導体企画・研究・開発部門、平成６年山口大学助教授（工学部電気電子工学科）。専門はナノ寸法半導体の加工・物性、デバイス（薄膜）結晶成長。ULSI，TFTへの応用を目的としたナノメータ寸法の新規デバイスの提案、及びデバイス物理・固体物性・表面物性・先端材料の基礎研究に関与してきたが、近年では光物性デバイス、半導体以外の機能デバイスも研究対象に入れている。現在、次世代アクティヴ・マトリックス型液晶ディスプレイ（AM-LCD）、有機LEDディスプレイ等のフラット・パネル・ディスプレイでの実現を目的とした新しい概念、ナノテクノロジ・オン・パネル（nanotechnology-on-panel; NOP）を提案したその基礎研究も行っている。

査読付き学術研究論文120編以上、著書「半導体デバイス－動作原理に基づいて－」（コロナ社、ISBN 4-339-00726-9）他１、日本・米国取得特許12件（主に先端半導体デバイス・製造方法に関する）。電子情報通信学会和文論文誌、英文論文誌編集委員。AWAD′01プログラム委員長IDW′03Active Matrix Display Workshop委員長。AMLCD′04プログラム副委員長。電子情報通信学会、応用物理学会、薄膜・表面物理分科会、シリコンテクノロジー分科会、日本物理学会、IEEE Electron Device Society各会員。

TOPICS

国際交流

タイ王国5大学から研究者を招き、第3回国際大学セミナーを開催

赤壁　善彦　農学部　助手　生物機能科学科　環境生化学講座

山口大学農学部はタイ王国との2国間学術交流の拠点である

山口大学農学部では、９月２日から９日までの日程で、タイ王国主要５大学（カセサート、スリナカリンウィロート、チェンマイ、プリンスオブソンクラおよびコンケン大学）の研究者を招き、植物の生理活性揮発成分に関する第３回国際大学セミナーを開催しました。山口大学農学部は平成10年度から、日本学術振興会とタイ学術研究会議の合意に基づく２国間学術交流（拠点大学方式による交流）の日本側拠点大学として、微生物の生物化学的研究に関してタイの研究者との研究の交流を行っています。既に、この学術交流により、数多くの発表論文と特許を生み、着実に成果を上げてきました。

国際大学セミナーは、微生物以外の異なった研究分野での同交流を目指す

国際大学セミナーは、微生物以外の異なった研究分野でも同様な交流が可能ではないかという提案が双方から出され、昨年（平成14年）２月に山口大学とタイ王国５大学間での国際交流を企画・促進を目的として、両関係者によって第１回国際大学セミナーが山口大学（吉田、小串、常盤地区）で開催されました。この各地区のセミナーで、お互いの優れた研究成果ならびに研究体制が紹介された中で、山口大学農学部の既に実績ある植物の生理活性揮発成分に関する研究課題が採択され、同年10月６日から13日までの日程でタイ王国５大学からこの分野に興味をもつ研究者（教官、大学院生）10名を招き、第２回国際大学セミナーとして開催しました。わずか１週間の日程でしたが、最新の知見の紹介および実験を通して、この分野の重要性と研究技術の有効性を体験していただきました。今回、第３回国際大学セミナーは、直接この分野に関わる研究者６名（教官）をタイ側から招き、最先端の研究報告ならびに最新技術の実体験を目的として開催しました。

加藤紘学長による歓迎スピーチ

国際大学セミナーは着実に成果を上げている

今回の国際大学セミナーでは、まず初日の夕食会で、加藤紘学長ならびに丸本卓哉副学長による歓迎のスピーチをいただき、このセミナーの重要性を参加者と主催者の双方が認識すると共に、盛んな情報交換を行う中で親睦を深めました。また、セミナーの期間中は、午前に、植物の生理活性揮発成分に関する最新の知見の梶原忠彦教官によるワークショップに始まり、昼を挟んで夕食まで、生理活性揮発成分の抽出・単離技術、核磁気共鳴スペクトル（NMR）およびマススペクトル（MS）を用いた構造解析、匂い嗅ぎガスクロマトグラフィーやアロマグラムを用いた匂い評価、植物病原菌に対する生育阻止効果、および植物抵抗性遺伝子の誘導解析の実験を松井健二教官、赤壁（筆者）が担当し、参加者に実際に体験していただきました。わずか１週間に満たない日程ではありましたが、土日を問わず、朝から晩までじっくりとつき合い、研究交流のみならず、人的な交流も期待通り行われました。最終日には宇部市内の宇部興産ケミカル工場を視察し、さらにタイ国内の宇部興産の合成ゴム、ナイロン樹脂工場の説明を受け、改めてタイ王国と山口との深い結びつきを感じる

TOPICS

ことができました。また、最終日の夕食会では、田浦保穂農学部長によるスピーチの後、互いの研究の関連性ならびに今後の発展性を語り合いました。一方、第２回国際大学セミナーの参加者との研究に関する情報および意見交換は現在も進行しており、さらには共同研究も検討され始め、この分野での研究の輪が広がろうとしています。このように、国際大学セミナーは年を重ねる度に着実に成果を上げています。

拠点大学方式による新たな研究交流として発展すべきである

山口大学農学部は拠点大学方式による交流の日本側拠点大学として、微生物の生物化学的研究に関してタイの研究者との研究の交流を行い、数多くの発表論文と特許を生み、発展を遂げてきました。一方、国際大学セミナーにおいても、参加者と主催者の双方が活発な意見の交換と実質的な討議を行うことができ、関連分野の研究者により着実な成果を上げ始めており、植物の生理活性揮発成分に関する研究が拠点大学方式による新たな研究交流として発展すべきであることが再認識されました。

Farewellパーティー後の写真撮影（タイ王国からの参加者　前列左から１，２，５，６，７番目，２列目左から１番目，田浦保穂農学部長　前列左から３番目，梶原忠彦教官　同４番目，松井健二教官　２列目左から４番目，筆者　同５番目，および関係スタッフ）

TOPICS

勲　章

広中平祐前学長に仏政府から勲章授与

山口大学前学長の広中平祐氏（現数理科学振興会理事長）に、このたびフランス政府からレジオン・ドヌール勲章が授与されることが決まりました。

来年１月にも東京のフランス大使館で叙勲伝達式が行われる予定です。

広中前学長は、1959年パリ郊外にある数理科学で世界トップレベルの高等科学研究所に初の外国人研究員として迎えられ、その縁で昨年同研究所に滞在する日本人研究者を支援する「広中平祐基金」を創設しました。こうした日仏研究交流への貢献が高く評価され、勲章が授与されることとなったものです。

レジオン・ドヌール勲章は、ナポレオン・ボナパルトによって1802年５月19日に創設されたものであり、平時戦時に軍人や民間人の勲功を表彰することを目的としたもので、日本ではこれまで、作家の大江健三郎氏や服飾デザイナーの森英恵さんらが受賞しています。広中前学長が数学のノーベル賞とされるフィールズ賞を1970年に授与された場所がフランスのニースであり、「縁があるのでしょう。勲章をいただくのは大変光栄なことです。」と感慨もひとしおといった様子でした。

文責；総務部総務課　広報・調査係長　後藤　明利

海外研修

平成15年度山口大学英会話（上級・海外）研修受講報告
リジャイナ大学短期集中ELSプログラムに参加して

伊東　明美　総務部人事課人事事務センター主任

この夏、私は「海外で語学研修！！」というまたとない機会を得てカナダに行ってきました。山口大学では事務系職員を対象に、昨年度から英会話上級研修ということで海外への研修派遣を行っています。今回８月３日からの４週間、カナダのリジャイナ大学ESL（English as a Second Language）センターにおいて、短期集中プログラムを受講しました。大学職員では私と工学部の上田政洋さんの２名、学生は各学部から16名の合計18名が山口大学から参加しており、ESLのプログラムとしては、都留文科大学等の他大学からの学生も合わせ、40名の受講生ということで行われました。

行くまでの準備も含め、この一ヶ月は恐ろしく早く時間が過ぎ去りました。このことはいかに密度が濃い内容だったかとも言えます。とても全ては書き切れませんが、いったいどんなことを経験してきたのかを簡単に綴ってみました。

クラスの授業とアクティビティ

私達は３つのクラスに分けられ、クラス担任がつきました。それぞれ個性豊かでしたが、私のクラス担任のボブは、昔俳優をしていたこともあるというだけあり、授業の展開がユニークで、とてもエネルギッシュでした。スピーキングのレッスンが中心の授業でしたが、彼は特に日本人が苦手な発音を重視しており、ずいぶん顔や口のトレーニングもさせられました。しかし最も重要だった

TOPICS

のは、プログラムの最終週に行われるプレゼンテーションに向けての準備とテクニックの学習です。このプレゼンは、私にとって研修の中での最大のプレッシャーでした。また、毎日クラスでの授業が終わると、多種多様のアクティビティが待っていました。アウトドアスポーツや資料館・施設の見学、歴史的地域への訪問、キャンプetc…。常に頭と体はフル回転でしたが、今はすべてが楽しく充実していたというほかありません。

ＣＰとホストファミリー

ＣＰ（カンバセーション・パートナー）は私達と会話練習をしたり、様々なアクティビティをサポートしてくれるリジャイナ大学の学生です。とても面倒見が良く、優秀な学生達です。彼らをを通じてカナダの歴史や文化、教育制度や学生の実態、等々、日本との違いも含め様々な情報を知り得ることができました。また、期間中ホームステイという形で滞在できたのはとても有意義なことでした。ホストファミリーは事前に何度もミーティングを行いプログラムの内容を充分理解しています。彼らと過ごすことが英会話やコミュニケーション力を鍛える上で大変重要でした。彼らの暖かい人柄と辛抱強さにはずいぶん救われた気がします。

英語力

このプログラムをこなすと、程度の差こそあれ間違いなく英語力はアップします。それは最後に受けるテストでかなり実感できます。期間中どこにいても、日本語で話すことは許されず、常に英語で話すことはストレスを伴いますが、私達のそういった努力は向こうのスタッフやＣＰ達にも高く評価されたようです。後は、いかにキープするかにつきます。

リジャイナのダウンタウン

職場訪問

以上のようなプログラムの合間に、大学職員である私達２名は職務研修として、それぞれ自身の職務に関連するところを訪問する機会を得ました。私はリジャイナ大学のHuman Resources （人事部）という部署でスタッフの方にインタビューすることができました。そこでは人事事務に関してお互いの大学の状況を説明しあいましたが、職員の採用の仕方に始まり、休暇や勤務時間など、システムの違いは非常に興味深いものがありました。スタッフの方もこちらのシステムは初めて聞くことばかりだということで、高い関心を持って頂きました。今後も折に触れ情報交換できればと

参加者全員

クラス担任のBobとクラスメート

筆者（左）とShibukiの担当だったCPのCam

思っています。

今回の研修参加は私にとっては大変なチャレンジでした。けれども、非常に良く作られたプログラムのおかげで沢山のものを吸収できたと思います。また、このプログラムに対するスタッフの熱意には学ぶべきところが多くありました。もっと自分の英語を磨きたいと思っている方には、是非次回の研修に希望されることをお勧めします。

最後に、いろいろな方にお世話になりながらこの研修に参加させて頂いたことに深く感謝しつつ報告を終わらせて頂きたいと思います。

山口大学における禁煙対策

喫煙の問題について、喫煙者は「たばこは文化」として喫煙権を主張し、一方、非喫煙者は健康への懸念から嫌煙権を主張し、日常生活上身近な争点となっています。

先進各国においては、たばこは有害との立場から、広告、販売規制等禁煙対策を推進していますが、我が国においてはたばこ産業と財務との問題等もあり、抜本的な改革がなかなか進んでいない状況です。

これまで厚生労働省、人事院などから「職場における喫煙対策に関する指針」が示されたのを受け、本学においても平成９年以降、禁煙・分煙の環境作りを進めてきましたが、このたび健康増進法が公布され、同法第25条には「受動喫煙」についての条文が定められており、平成15年５月１日から施行されました。人事院からも平成15年７月10日付けで「喫煙対策指針」が通知され、さらに禁煙対策を講じる必要性が生じています。

現在、部局によっては、すでに上記に基づく禁煙対策が実施されていますが、山口大学における建物内は原則として禁煙とし、喫煙者に対して屋外での喫煙場所の指定及び喫煙所を設置することなどにより、禁煙対策を実施するものです。
受動喫煙の防止について、学生・教職員の皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

実施年月日

平成16年４月１日から
（平成15年12月１日から平成16年３月31日までの間を試行期間とします。）

屋外の喫煙

指定場所を除く学内全域を禁煙とします。

建物内での喫煙

・大学構内における全ての建物内での喫煙を原則として禁止します。
・大学構内以外の大学関連施設での喫煙も原則として禁止します。
（附属学校、課外活動施設《ヨット部、ボート部》等）

TOPICS

禁止事項

・歩行中の喫煙
・吸い殻のポイ捨て
・学内でのたばこの販売は、平成16年３月31日をもって廃止（自動販売機も撤去）

禁煙支援

保健管理センターを中心に禁煙教室、インターネットを利用した「禁煙マラソン」、禁煙外来を持つ医療機関などとも連携して禁煙支援プログラムを実施します。

違反者に対する指導・助言

学生については、学生生活環境専門委員会において対応します。

職員については、安全衛生対策専門委員会において対応します。

健康増進法第25条

学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、百貨店、事務所、官公庁施設、飲食店その他の多数の者が利用する施設を管理するものは、これらを利用する者について、受動喫煙（室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいう。）を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない。

最近の禁煙関連取組事例

2001年

山口県：「健康やまぐち21禁煙チャレンジマラソン」を実施。
禁煙希望の参加者を募集し、一般コースと医療機関サポートクラスの２コース。参加者に禁煙支援資料を事前送付。５月から禁煙開始、定期的に指導し、７月下旬にアンケート。完走者に認定書と記念品を授与。149人が参加し、禁煙達成者は69人。

2002年４月

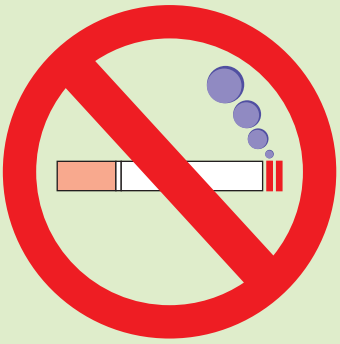
和歌山県教育委員会：「和歌山県たばこ対策指針」を受けて、公立学校の敷地内禁煙を制限している。
和歌山県立医科大学は、附属病院内全面禁煙を実施している。

2003年

山口県：庁舎内の全面禁煙を実施した。

呉　市：12月１日から、本庁と市内10か所の支所の庁舎内を全面禁煙にする。広島県内の自治体でも庁舎内の「分煙化」は進んでいるが、全面禁止は市では初めて。
県内の自治体では、世羅、世羅西両町が庁舎内を全面禁煙にしている。

ブータン：ヒマラヤの麓の小さな仏教国ブータンが、世界初の完全禁煙国を目指している。すでに国内のほとんどの地域でたばこの販売が禁止されており、政府は今年中にも全面禁煙を実施したい考え。



禁煙関連統計

2002年５月現在　国内喫煙者数：

男	49.1％	（対前年比△2.9P）
女	14.0％	（対前年比△0.7P）
男女合計	30.9％	（対前年比△1.8P）

男性は1965年には80％だったが、30年間でおよそ30％減少した。しかし、アメリカ、イギリスに比べるとまだ２倍の喫煙率で発展途上国と同レベル

【たばこ価格】

欧米諸国：１箱がおよそ500～600円で、日本の２倍程度。

日本：１箱300円前後

【喫煙者の死亡率】

厚生労働省の10年間の追跡調査の結果、非喫煙者に比べて

ガンの死亡率：男　約1.6倍、女　約1.8倍

心臓病・脳卒中の死亡率：
男　約1.4倍、女　約2.7倍

TOPICS

山大が動き出す2!!

山口大学VI（ビジュアルアイデンティティ）プロジェクト
広報活動専門委員会

■アンケート調査の分析

VI策定作業の一貫として学生、教職員、地域住民、企業・団体、OBの方々にアンケート調査を行い、それぞれが山口大学に対して抱いているイメージなどを記入していただきました。またVIプロジェクトスタッフによる、学長、副学長へのインタビューも行い、今後のVI策定方針に関する基本姿勢、方向性などを確認しました。

■山口大学の優れている点は「環境」

優れている点については、学生、教職員、地域、企業、OBそれぞれに共通して「環境」であるという回答が多かった。やはり自然に恵まれた清閑な立地条件が、学業、研究に適しているという印象が一番に見られる。

次いで教員、地域を中心に「教育」への関心が高い、研究施設が充実している事、地域とのつながりや地元自治体・企業との連携についてなどへの期待が寄せられている。

職員・教員など学内では、比較的高い割合で地域貢献しているという意見が多い反面、実際の地域の方々や学外の企業関係者の結果では、優れているという意見は全体の２割程度に終わっているなど、学内と学外との間で意識の違いが現れている。

TOPICS

■山口大学の劣っている点は「施設・設備」

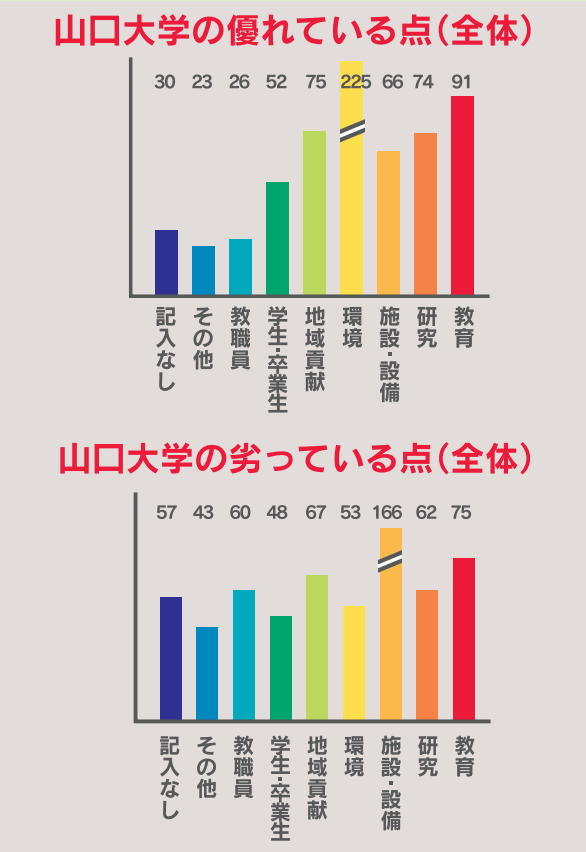
もの足りないと思われる点は全体的に「施設・設備」に集中している。具体的に、教職員や学生の福利厚生施設・実習や研究施設の他、冷房設備や外観など建物自体に関する意見も多い。

学生は施設に次いで「教育」への不満が高く、地域び人たちからは「地域への貢献」に物足りなさを感じるという声が出ている。また、多くのOBも大学の「地域への貢献度」に不満が出ている。「地域貢献」については学内と学外で意識にはっきりとした違いが出る結果となった。学内では比較的に割合の低い「学生・卒業生」への不満度も学外では企業を中心に、積極性などの点で物足りなさを感じるとした回答が多かった。

■ライバル校は広島大学

どの大学をライバル校だと意識しているかには、学内外問わず広島大学をライバル校だと思っているという答えが最も多い。

その他には、具体的に東京大学、京都大学、九州大学、岡山大学、島根（医）大学、愛媛大学等の名前が上がる。学内の教員や職員の回答には九州の私立大学の名前もある。



■山口大学のチャンスは地域を生かすこと。

山口大学の将来について、学生では地域貢献を最も大切と考えており、教員・職員では地域貢献と同時に教職員の個性、学生の意欲などを重要視している。

また、地域・企業からは地元山口県の発展や他県に流出しがちな良い人材を集めることができるといった点で、山口大学を評価している。

OBからは地域貢献や世界や首都などに向けた第一線での活躍を望む声がある。

脅威になる点として、学生では法人化による組織の弱体化、教育学部の存続などの意見があった。

教員からは、学生や教職員の個性の発揮、OBからも、大学の特色や個性を発揮させるための環境を充実させる問題などが上げられています。

企業や団体、地域からは、学生への教育や就職支援や外に向かってのPR活動等の物足りなさが上げられた。

■理想の山口大学像は

理想の大学像については学生から、明るい活気のある大学を目指すことなどの意見がでた。教員・職員・OBからは学生の情熱、山口県としてのプライドを守るなどの意見がでた。他に地域社会への貢献等がある。

学外の地域の方や企業・団体からは、学生の質の向上、地元地域への貢献、積極性に期待するという答えが多い。

調査結果から、大学内部と外部に、大きなギャップが存在することがわかります。最も大きいものは、大学の「地域貢献」においてです。教職員など大学内部では、研究成果の開放や共同研究の実施など、社会貢献についてかなり行われているように考えられていますが、地域の人々、企業の側からは、地域貢献が足りない、大学の姿が見えてこないとの意見が多くあります。これは大学側のコミュニケーション不足、またはミス・コミュニケーションによるものであると思われます。

現在、これらの結果をもとにブランドプロミスの策定を行い、新しいシンボルマーク開発を進めています。11月にはみなさんに見える形でのプレゼンテーションを考えています。

私の研究

自閉症児への支援と イルカ介在療法

木谷　秀勝　助教授
教育学部附属教育実践総合センター

1. 自閉症について

「自閉症」という発達障害（先天性の脳の機能障害です）について、多くの方々は耳にしていると思いますが、正しい理解をしていないことをしばしば体験します。自閉症の正確な理解としては、症状の基本になる「障害の３つ組」と呼ばれる特徴を理解するとわかりやすいようです。第一に、対人関係の障害（人の気持ちや状況理解が苦手である）、第二に、コミュニケーションの障害（独特なしゃべり方やオウム返し等）、第三に、興味・関心の限局（ある特定のものへの強いこだわりやパターン化）があります。

2. 自閉症への支援について

以上の特徴をもつ自閉症という発達障害への対応として、能力的に知的障害（軽度から最重度まで）を合併している自閉症もいれば、正常知能を有する自閉症も多く、一人一人の自閉症に適した個別支援プログラムが重要になっています。また、一生涯にわたる医学・教育・福祉等の関係機関との連携が必要だと言われています。同時に、こうした支援プログラムの中で重要性が高くなっているものが、「余暇支援プログラム」です。我々にもリフレッシュする時間や空間が必要なように自閉症にも必要であり、この余暇支援により情緒的な安定感も維持されることがわかってきています。そして、イルカ介在療法もこの余暇支援と大きな関連性をもってきています。

3. イルカ介在療法について

従来の研究ではイルカが出す超音波が人間の心を「癒す」と記述されていますが、その科学性については十分な立証はありません。それよりも、実際に自閉症児を対象としたイルカ介在療法を体験して理解できることは、次の２点です。第一に、新たな環境や対象に対する情緒的な混乱が生じやすい自閉症児が、自閉症を専門としているスタッフと一緒に「イルカ」という新たな対象へと自発的にチャンレジする体験を通して、日常生活に何らかの自発性が生じる契機となりやすいことです（個人差はありますが）。第二に、家族にとっては新たなチャレンジができたことを目の前で共有でき、子どもがもつ新たな可能性へのヒントを得ることができることです。言い換えれば、イルカ介在療法というと、イルカが主役のように感じますが、主役は自閉症児とその家族であり、イルカという自閉症児も興味・関心が高い（だから、不安でもイルカに触ってみたくなるのですが）対象とそのイルカがいるすばらしい環境、そして自閉症児とイルカとの間を仲介する専門スタッフがそろって、初めて「イルカ介在療法」が意味を持つようになると考えています。

4. イルカ介在療法の可能性について

こうしたイルカ介在療法の考え方から理解できるように、イルカ介在療法で自閉症そのものを治すといった非科学的なことを望むよりも、重要なことはイルカ介在療法で得た自閉症児とその家族の新たな体験を日常生活にどのように広げていくかであり、同時に長期にわたり、余暇支援へと繋ぐことができるような地域支援体制を構築することです。そうした意味からも、今年度下関市の海響館で実施しているイルカセラピーでも、将来的には地域（下関市全体を対象とした）支援の中の治療環境（余暇支援も含めた）の一つとしてイルカセラピーが位置づけられるように検討しています。

以上のようなイルカ介在療法の可能性をさらに科学的に立証するために、今年の８月にNPO法人日本ドルフィンセラピー協会（木谷も理事の一人です）が設立されて、同時に自閉症児へのイルカ介在療法の実践については、ブレーン出版より「イルカ・セラピー入門」が出ましたので、ご参考にされて下さい。

学内連絡先
電話：083－933－5464（FAXも兼ねる）
メール：kiya@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

構造物のお医者さんを目指して
ーインフラドクターの創成ー

宮本　文穂　教授
工学部　知能情報システム工学科

構造診断学の必要性

100年に近い寿命を有するようになった人間の誕生から死までの間にかかる病気の原因診断、治療にはメディカルドクター（医者）と呼ばれる専門家集団が高い倫理観と社会的地位を築いています。一方、ほぼ同様の寿命を想定して設計される橋梁、トンネルなどの社会基盤構造物（ライフライン）には、その寿命を全うさせるための特別の技術は不必要と考えられてきたこともあって、つい最近まで、創造的な作業を伴う構造物設計業務に比べて既存のものを対象とする維持管理業務は、どちらかというと地味な分野に位置付けられ、次世代を担う優秀な若者を惹き付ける魅力に欠けていると見なされがちでした。

しかし、我が国の社会資本ストックの質・量が欧米諸国を凌ぐまでになった現在、これらの性能（機能）を可能な限り健全に長持ちさせると共に、環境とも調和させながら、人間の場合と同様に高齢化、長寿命化に対処していく必要があります。このため、各種構造物を健康診断（評価・判定）して治療（補修・補強計画）する医者の役目を果たす高度な最新情報処理技術を身につけた専門技術者の育成（診断学）が必要になります。それと同時に、維持管理業務には、膨大な知識また豊富な経験が必要となることから、専門技術者を支援し、また、その知識や経験を継承していくコンピュータシステムの開発も必要となってきます。そのため、**図1**（右頁参照）に示すような「病理（理論のみならず「臨床」経験を十分積み、しかも人間で言えば在宅医療にあたるヘルスモニタリング技術と情報処理技術を習得した、メディカルドクターと肩を並べる"インフラドクター"の創設が必要な時代が到来してきています。すなわち、ライフサイクコスト(LCC)やマネージメントの概念などを取入れ、土木・建築工学の枠組みを越えた情報、システム、電気、機械工学などの広範囲な学術領域の有機的な結集のもとに、情報ネットワークによるデータベースシステム、マルチメディアバーチャルリアリティ技術、インテリジェントモニタリング技術、人工生命や人工知能技術などの最新情報処理技術を援用して、社会基盤構造物の計画、設計からこれらが耐用年数を迎えるまでの診断、治療に全責任が持てる専門家集団の形成を議論する時期に来ています。

最新情報処理技術を援用した構造診断システム開発例

図2（P42参照）は、著者が中心となって現在までに開発してきた橋梁維持管理支援システム（以下、J-BMS）の概要を示したものです。本システムは、既存橋梁を対象とし、その健全度診断ならびに診断結果に基づく補修・補強工法の選定のみならず，限られた予算内で最大の効果を得るための最適維持管理計画の作成が合理的かつ効率的に実施可能な統合型維持管理支援システムで、ニューロ・ファジィ・エキスパートシステム，遺伝的アルゴリズム（GA）あるいは免疫アルゴリズム（IA）などの最新情報処理技術を利用してシステム構築を行ったものです。

既存橋梁に対する維持管理業務は、その基本フローである「調査・点検」→「診断・評価」→「判定・対策」に従って行われます。まず、橋梁諸元データと呼ばれる「基本データ」と目視点検などから得られる「点検データ」を「データベース」に格納します。そして、「データベース」とのリンクによって検索された対象橋梁に関する種々のデータを入力して（**図2** P42参照）、「橋梁診断エキスパートシステム」を起動することによって、耐荷性、耐久性を100点満点の健全度で出力します（**図2** P42参照）。次に、これをもとに「劣化予測機能」によって今後の劣化予測を行い、対象部材の今後の劣化進行を視覚的に確認できます（**図2**

P42参照)。最後に、「劣化予測機能」から出力された劣化進行状況から、それぞれの対策工法の効果および必要な費用を組合わせて考慮することによって、今後の最適維持管理計画（工法選択、時期、ライフサイクルコストなど）を導出します（**図2** P42参照)。

おわりに

21世紀の社会基盤構造物には、環境共生と高性能化、大規模・複雑化が要求されるとともに、既存構造物の本格的な維持管理が必要な時代の幕開けでもあります。都市高速道路などの社会基盤構造物のストックは確実に増加しており、それに伴って維持管理業務の必要な構造物の量が急速に増えることは想像に難くない状況です。事実、本年８月に発生したカナダ、アメリカでの大停電は、快適で便利な都市機能を一瞬にして麻痺させる程の計り知れない影響を及ぼす結果となりました。この原因の一つに1960年代に完成した施設の老朽化が挙げられています。今後は人間の場合と同様に、長寿構造物を守る分野をいかに優秀な若い技術者を惹きつけ、生き生きとしたものとするかが重要になってきます。

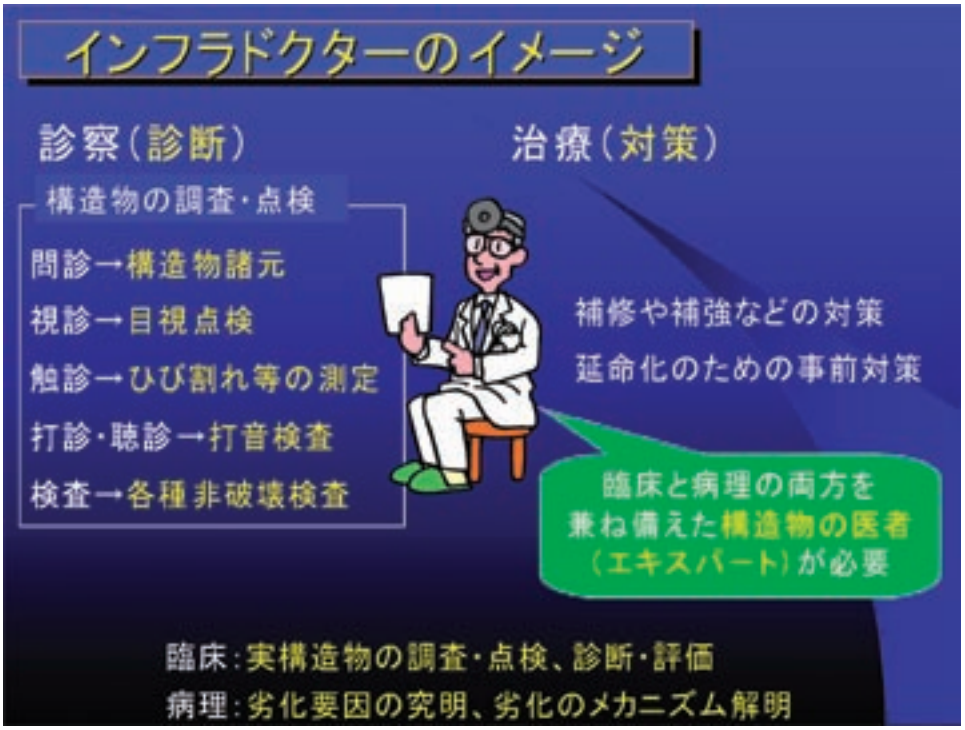


図１　インフラドクターのイメージ

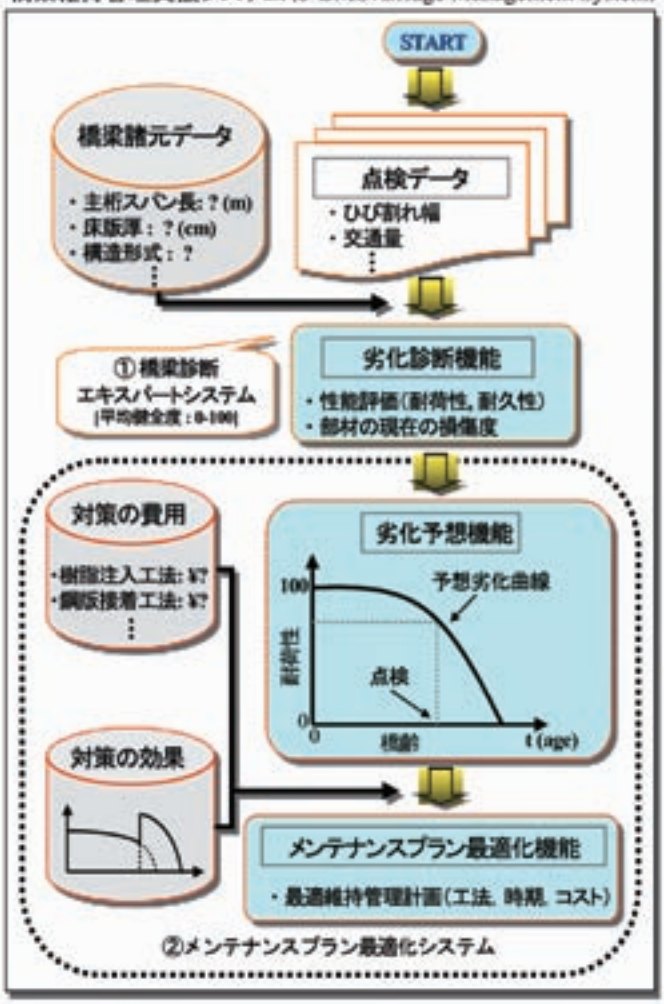
橋梁維持管理支援システム（J-BMS：Bridge Management System）

《研究背景》

社会基盤構造物は，維持管理の時代を迎えている（事後保全→予防保全）．そこで，構造物に対する劣化診断ならびに限られた予算内で最大の効果を得るための最適維持管理計画が作成可能な維持管理支援システムの必要性が高まっている．

《研究内容および研究業績》（対象：RC橋梁）

橋梁維持管理支援システム（J-BMS：Bridge Management System）

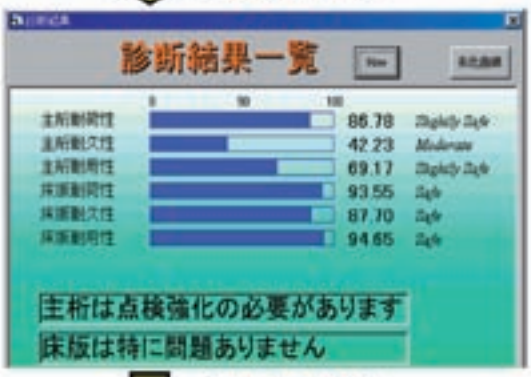


他）③維持管理対策選定システム，④BMSデータベース

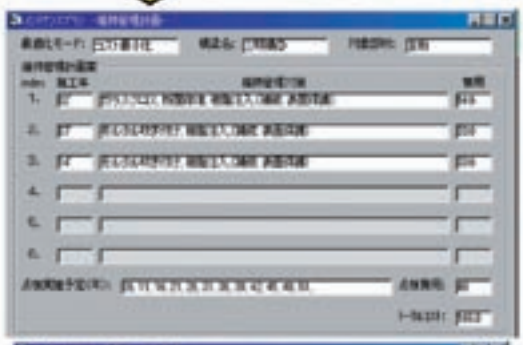
関連論文：http://gateway2.design.csse.yamaguchi-u.ac.jp/lab/index.html

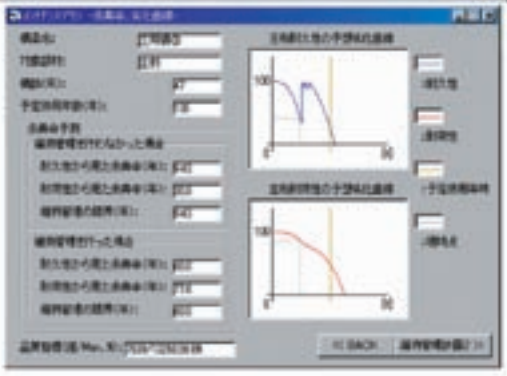
【調査・点検】

【診断・評価】



【判定・対策】





《今後の研究計画》

- 知識更新（自己学習）機能の構築による出力結果の信頼性の向上およびユーザへの推論結果の明示化（①&③）
- 交通道路網レベルにおける維持管理計画の作成（②）
- データベースより維持管理に役に立つ知識を抽出するためのデータマイニング技術の応用
- 高汎用性のアプリケーション作り（NIKKEI CONSTRUCTION 1999.10.22 p62-63に注目技術として掲載）

図２　橋梁維持管理支援システム（J-BMS）の概要

平成15年11月2日（日）より開催

第19回 企画展 「吉田遺跡と平川の遺跡展」

公開授業 山口の歴史にふれる ー考古学から見た平川ー

参加者募集

考古学を通して郷土の歴史を学び、古墳の見学や遺跡の出土品に触れながら昔の人の生活を想像してみませんか。

開催日	11月8日（土）
時間	（受付）午前9時30分～午前10時 （授業）午前10時～午後3時 （終了時間は多少前後するかもしれません）
対象	小学校高学年 ～ 一般
定員	30人程度（定員になりしだい締め切ります）
参加料	無料
保険料	50円
当日持参	筆記用具、絵の道具、弁当、保険料
主催	山口大学埋蔵文化財資料館
後援	山口市教育委員会

10月3日（金）から電話、FAX、E-Mailで申し込みを受け付けます。
詳細は、埋蔵文化財資料館までお問い合わせください。

開館時間	午前9時～午後4時30分
休館日	毎週土・日・祝祭日 年末年始（11/2姫山祭は開館）
入館料	無料
場所	山口大学埋蔵文化財資料館

お問い合わせ先
山口大学埋蔵文化財資料館
〒755-8511 山口市大字吉田1677-1
TEL/FAX (083) 933-5035
E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

2003年度　日本語教育学会　第10回地区研究集会
山口会場プログラムとご案内

主　催：日本語教育学会
後　援：山口大学人文学部後援会・山口大学人文学部国語国文学会
協　賛：全国語学教育学会（JALT）山口支部日本語教育部会
協　力：日本教育カウンセラー協会山口支部
会　場：山口大学（山口市大字吉田1677－1）大学会館
連絡先：山口大学人文学部言語文化学科
林伸一研究室
☎083-933－5280　090-6415－8203（林携帯）
E-mail:hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

12月6日（土）

口頭発表［午前の部］
司会：**石原　淳也**（広島大学留学生センター）
10:20～10:50
初級日本語学習者に対していかに「日本事情」の授業を展開するか
～大学における実践報告をもとに～
中村　美咲（徳山大学）
10:55～11:25
帰国入国児童の教科学習に関する一考察
～日本と中国の算数教科書の比較から～
中村　清夏（広島大学大学院生）
11:30～12:00
留学生の日本語授業に参加する学生ボランティアの背景と、実践を通した変化と深まり
御舘久里恵（鳥取大学留学生センター）

講演・シンポジウム［午後の部］
13:00～14:30
多文化共生のコミュニケーション
～日本語教育の現場から～
徳井　厚子（信州大学教育学部）
14:40～16:40
シンポジウム：多文化共生時代の日本語教育
奥村　訓代（高知大学人文学部）
玉岡賀津雄（広島大学留学生センター）
徳井　厚子（信州大学教育学部）
司会：**林　伸一**（山口大学人文学部）

12月7日（日）

口頭発表［午前の部］
司会：**松崎　　寛**（広島大学大学院教育学研究科）
10:20～10:50
タイ人日本語学習者の子音の習得順序における有標性の影響
～有声音・無声音を中心に～
平岩　ゆか（広島大学大学院生）
10:55～11:25
特殊拍の聞き取りと発音の関係に関する研究
～中国語母語話者を対象として～
平川奈津子（広島大学大学院生）
11:30～12:00
中級者対象日本留学試験聴解・聴読解対策指導についての一考察
～７ヶ月間の実践記録の結果から～
清水　華代（愛媛女子短期大学）

口頭発表［午後の部］
司会：**酒井　峰男**（岡山大学留学生センター）
13:30～14:00
Focus on Formとして行われている教室活動とその問題点
～Focus on Form研究のまとめを中心に～
中上　亜樹（広島大学大学院生）
14:05～14:35
対のある自他動詞対に関する学習ストラテジーの有効性
～対応する動詞からのペア再生について～
中石ゆうこ（広島大学大学院生）
14:50～15:20
初級準備段階としてのサバイバル・ジャパニーズのシラバス検討
鹿嶋　　恵（三重大学留学生センター）
15:25～15:55
思いがけない非難を受けた際の反応について
～台湾人と日本人の比較～
呉　　秦芳（山口大学大学院生）
総括討議：16:00～16:30
司会：**林　伸一**（山口大学人文学部）

なお、発表者の都合で発表順序が入れ替わることがあります。日本語教育学会会員以外の方の参加も歓迎いたします。参加費は無料ですが、当日発表内容の予稿集を一冊500円で頒布致します。当日の昼食の弁当は各自ご用意ください。
交通手段：山陽本線新山口駅（10月1日より「小郡駅」の駅名変更）から山口線「湯田温泉駅」下車。徒歩25分。または、新山口駅から防長バス山口行（バイパス経由を除く）「湯田温泉」下車。徒歩30分。または、「湯田温泉」よりJRバス山口大学行に乗って、「山口大学」下車。
宿泊など：湯田温泉にて宿泊を希望される方は、あらかじめ上記連絡先までご連絡ください。宿泊情報などをお送りいたします。
山口大学：会場となる山口大学では、インターネットを利用したホームページを開設しております。アドレスは、次の通りですので、ぜひご活用ください。http://www.yamaguchi-u.ac.jp/

教官著作書の紹介

『臨床場面における夢の利用－能動的夢分析』

（誠信書房　2003年５月30日）

私は1999年に風間書房から『夢分析における臨床的介入技法に関する研究』を出版しましたが、これは博士論文をそのまま公刊したもので、煩雑かつ高価なものでした。もっと安価で分かりやすくという読者の要望に応えたのが、今回出版の『臨床場面における夢の利用』です。副題にある「能動的」の意味は、夢主が自ら夢の意味を発見することができるような環境をセラピストが「質問」という形で能動的に整えてあげるという意味です。

本書は臨床心理士・スクールカウンセラー・医師・看護師・精神保健福祉士といった専門家を対象としたものですが、本書で詳述されている介入技法を用いれば、学生や社会人・主婦の人たちでも自分が見た夢の意味を自己抽出することが可能です。夢の意味が分かれば、人生におけるさまざまな危機に有効に対処していくことが可能となります。本書ではまた、夫や子どもに尽くして自分の生を貧困化させたある中年女性の夢分析や、平安時代中期の歌人の藤原道綱母が見た蛇の夢の分析なども行っております。

名島潤慈　教授　教育学部　教育心理学教室
E-mail: najima@yamaguchi-u.ac.jp

Development Education in Japan: a comparative analysis of the contexts for its emergence and its introduction into the Japanese school system

(New York & London: Routledge Falmer:2003)

Development Educationは日本では開発教育と翻訳されていますが、時代や国によってその意味にはかなり幅があります。本書では、主にヨーロッパを中心に先進工業国の中で展開してきた開発途上国との関係理解の教育に絞り、その誕生と学校教育への導入の背景をいくつかの要因をあげて比較・分析しています。

日本でも1990年代に入ってから、「国際理解教育」や「開発教育」ということばのもと、このような教育が学校教育でもすっかりおなじみのものになりましたが、「国際化の進む現代」に必要であるとされるこれらの教育は、実は、多くの先進工業国では1970年代に活発になっています。この20年以上のタイミングの違いはなぜ起きたのか、その理由を教育制度内外から解明しようと試みたのが本書です。

石井由理　助教授　教育学部　　国際理解教育教室
TEL.083-933-5423
E-mail:yuri@yamaguchi-u.ac.jp

『Japan and East Asia in Transition : Trade Policy, Crisis and Evolution, and Regionalism』

(Palgrave Macmillan 2003年９月刊)

本書は、90年代半ば以降急速に変容してきた日本と東アジアの経済関係を、国際政治経済学の切り口によって考察したものです。貿易匡正措置（アンチダンピングとセーフガード）、アジア通貨危機と地域的産業再編、地域統合という領域での日本の政策対応を縦糸に、地域的リーダーシップ、中国との２国間関係、対外政策に対する国内政治の影響を横糸にしながら、対外環境の変化が国内アクターの選好や国内制度を通して日本の対東アジア政策に与えた影響を分析しています。

日本は、アジア通貨危機からの回復支援など地域経済の健全な発展に前向きに取り組み、地域的リーダーシップを果たすことに積極的になる反面、中国との関係においては戦略的な政策への指向を強めています。本書では、こうした積極的・戦略的政策が、経済官僚やビジネスアクターの選好の変化に起因していることを明らかにしました。さらに、自民党の権益に直接関わる対外経済問題では消極的政策が採られており、その原因が政治制度の不動性などにあることを論じています。

吉松秀孝　助教授　大学院東アジア研究科
E-mail:yoshih@yamaguchi-u.ac.jp

新聞掲載された山大・地域から見た山大

7月

◆ 文化　イラク派兵、四つの疑問
山口大学教授　纐纈　厚 氏
国連決議を都合よく解釈
支援もまず自衛隊ありき（東京(夕刊)：２日）

◆ 地震避難訓練81％実施
山大工学部の山本教授調査　県の全小学校対象
（ウベニチ・宇部時報：３日、朝日・読売：４日）

◆「言論、…・‘世論尊重’で発展を目指すべき」
国立山口大学教授　纐纈　厚
（韓国の新聞『雪峰新聞』：５日）

◆ 地域貢献
ＩＴ駆使未来の授業　　山口大生、児童に講義
（中国：６日）

◆ 山口大学で「七夕祭」　沖縄旅行も当たる！
きょう、吉田キャンパスで
（サンデー山口：５日）

◆ 国立大法人法案廃案求め意見書
－山大教職員組合－　（山口：８日）

◆ 山大生が法相メッセージ
県庁　社会を明るくする運動
（防長・読売：９日）

◆ 山大おもしろプロジェクト
「田舎のくらしを楽しもう」　参加家族を募集
（サンデー山口：９日）

◆ 山大の入学定員1955人　　－来年度－
（朝日・山口：10日）

◆ “イルカに触ってみて”
海響館　自閉症児がふれあい
指導する臨床心理士山口大教育学部
木谷秀勝助教授（読売：10日）

◆ ネットワークエコー
ジェンダー学講座
山大経済学部　講師　鍋山祥子氏
（サンデー山口：12日）

◆ 宇部に新産業創出組織
商議所など産学官　医療・ＩＴなど軸
（日経：12日）

◆ 山口大大学院理工学研究科
演習通じ技術と経営学ぶ
人材育成プログラム開発へ
14チームが成果発表模擬的な見本市も
（宇部：15日）

◆ 夏休みジュニア科学教室
７月24日－８月23日　県内14会場
（宇部：15日、宇部：24日、宇部：28日）

◆ 小学校８割で避難訓練
学童地震対応アンケート　対処法など関心高く
（毎日：16日）

◆ 山大医学部卒業生米国で活躍
ビタミンＣで心機能改善へ
画期的な研究注目　　高橋さん発表の論文
（朝日：16日）

◆ 年度内、組織固め　　－山口大－
管理・活用ノウハウ構築　（日経：16日）

◆ 大学知的財産本部の整備　　－文部科学省－
山口大が実施校に
（山口・毎日・中国：16日、読売：18日）

◆ 山口大理学部サマースクール
（朝日：16日）

◆ 法人化後の影響など協議　　－山大と県－
（山口：17日・中国：18日）

◆ 起業家育成など10事業
山口大・県連携推進協　　地域貢献特別支援
（宇部時報：19日）

◆ 今年度と同じ1955人
山口大の来年度入学定員
（宇部：23日）

◆ 迫る土砂生死紙一重－土石流・水俣の集地区－

新聞掲載された山大・地域から見た山大

隣家からの電話がなかったら……
警報時点で避難勧告あったら……
（朝日：23日）

◆ 救命連携がっちり　－来月から運用開始－
山大病院と消防本部　ドクターカー調印
（宇部：23日、山口・西日本：24日、中国：26日）

◆ 地域間交流活性化に向けて
日韓学生交流セミナー開催
（サンデー山口：27日）

◆ 英語を話す技術者育成　－山大工学部－
東アジア国際コース開設へ　（山口：29日）

◆ 東アジア国際コース新設
山大工学部　英語話せる技術者育成
（毎日：30日）

8月

◆ 産学官連携コーディネーター配置
－産業振興財団－
（山口：１日）

◆ ドクターカー走り出す　－宇部市消防－
山大と連携　救命率向上に期待
（朝日：１日）

◆ 世界的天文学者　岡村教授宇宙を語る
－理学部－　（サンデー山口：３日）

◆ *やまぐち見聞録*　山大が知的財産管理へ組織作り
問われる大学の力量
社会にどう生かすかが課題　（毎日：３日）

◆ 山口大教授ら県内は３人に
安田生命研究助成
－山口大農学部　山本晴彦教授他
（山口：５日）

◆ 水泳先生は山大生
秋穂小、講習に児童60人　（山口：６日）

◆ 企業技術の事業化支援
中国地域ＭＯＴコンソーシアム発足
産官学連携　教材開発や出張講義も
（山口・毎日・日経・読売：８日）

◆ 中学生が自然災害学ぶ
山大教授ら指導、雨量計作り（読売：12日）

◆ 技術経営で初の地域連携
山口・広島大など　500社参加の見込み
（防長：10日）

◆ 資源・素材学会が秋季大会
９月　山口大工学部など　（宇部：14日）

◆ 宝の鍵を探せ　－宇部市再生へ３つの戦略－
山口大の共同研究は全国で上位10位以内
（宇部：15・16・19・20・21日）

◆ 国立大自立への道　危機管理
体制・施設の対策急務　（中国：16日）

◆「ＭＳブラスト」大きな混乱なし
－九州・山口－　（夕刊読売：18日）

◆ ナノ・ミクロポーラス物質の構造と物性評価
４,５日　山大共同セ　（宇部：18日）

◆ きょうとあす「産学官」シンポ　－宇部市－
（西日本：19日）

◆ 山大は数十台　（山口：19日）
「ブラスター」に感染

◆ 山大でも96台復旧　（山口：21日）
「ブラスター」に感染

◆ 産学官連携　成果着々
－中国地域コラボ・シンポ
中間報告　実用化は目標上回る
600人が講演などで情報交換
（宇部：20日）

◆ 山大留学生指導ギョーザを作る
―小郡で田んぼの学校－　（山口：25日）

◆ 心と体テーマ　大学開放講座
宇部、受講生募集　（山口：26日）

新聞掲載された山大・地域から見た山大

◆ ドクター・ヘリ来月運航
離島や辺地の急患を搬送
防災用を全国初活用
（西日本・山口・毎日・朝日・防長：26日、読売：９月２日）

◆ 学力向上の研究計画発表
フロンティアハイスクール　推進協第１回会合で　（毎日：27日）

◆ 11団体がＹＳＮ活用案
県の実験計画　助成４団体、２日発表
（山口：28日）

◆ 山大生、犯人の前に立ちはだかる
山口署、浜口さんに感謝状　（山口：29日）

◆「南海地震の怖さ知って」　－県立図書館－
山本・山大教授が企画　46年の記事などを展示
（毎日・宇部・読売・ウベニチ・宇部時報：30日）

◆ 10月７日から山口大公開講座
女性のための健康講座
申し込みは９月２日から　定員25人先着順
（宇部：30日）

９月

◆ 高速、大容量YSNどう生かす
実験計画に５件
宇宙観測や高齢者支援も　－県が選定－
（西日本・山口・日経・朝日：３日）

◆ ＦＥ受験対策セミナーと模擬試験
24日、山口大工学部　（宇部：３日）

◆ 県民参加の宇宙電波観測など
５事業を選定　YSN独創的実験プロジェクト
（防長：３日）

◆ エクステンションセンター設置で　山口大学
より身近な大学に　開かれた大学へ動き着々　（サンデー山口：５日）

◆ 薬害の実態、被害者に学べ
国立大医学部で講義
来年度以降27大学に増
エイズ患者ら招き　（朝日：８日）

◆ 小児科、来年設置へ
山大が医師派遣、年明けから
－萩市民病院－　（毎日：７日）

◆ 東アジア市民シンポジウム
20日、山口大経済学部　（宇部：９日）

◆ 山口大公開講座　－13日、同大本学－
（宇部：10日）

◆ 山大教育学部
10月から「ヒューマンスクール」受講者募集
（サンデー山口：12日）

◆ 女性専門外来が人気
－山大付属病院・国立下関病院－
完全予約制で診療時間も十分
性差着目した試み・同姓に「安心感」も
（朝日：13日、宇部時報：12日）

◆ 山口大の女子学生３人
地域支援のファンド
出資募りＶＢ投資　きょう設立シンポ
（日経：13日、夕刊毎日：25日）

◆宮本教授の受賞記念　－山口大工学部－
「地元の技術者を魅力的にする集まり」
20日、ホテル河長　（宇部：12日）

◆ 24－26日まで高分子討論会　－山口大で－
（山口：22日）

◆ 山大混声、全国大会へ
思い観客に届いた・全国でも金賞狙う
－山大混声－　（朝日：21日）

◆ 劇団４回生演劇公演
10月３日、４日、山口大で
（サンデー山口：26日）

新聞掲載された山大・地域から見た山大

◆ どこにいてもテレビ会議
山大の新システム稼働
－来月から３キャンパス結ぶ　（朝日：28日）

◆ 中国５大学学生競技大会
テニスで山大３連覇　（読売：29日）

◆ 山大経済学部100周年シンポ　－来月18日－
（朝日：30日）

10月

◆ 山大人文学部
サタデーカレッジ後期（サンデー山口：１日）

◆ Ｑ国籍って何？
私の研究　人生
―山口大学経済学部助教授　柳井健一さん－
海賊にも与えた英を考察　（毎日：１日）

◆ 山口大学医学部軽音楽部ラテンエコーズ秋期定期演奏会　（朝日：２日）

◆ 18日に東アジア国際シンポジウム
＝山大経済学部－
（山口：７日、サンデー山口：８日）

◆ 広中氏に仏勲章　研究交流
（山口・中国：８日）

◆ 山大で27日学術講演会　－山大経済学部主催－
（山口：９日）

◆ 付属病院長に沖田氏を再選
（読売・山口：９日）

◆ 山大埋蔵文化財資料館
11月８日に公開授業　（サンデー山口：12日）

◆ 朝鮮学校生らに個別審査を実施
－山大来春入試－　（毎日：15日）

◆ 199柱に感謝めい福祈る
解剖献体者慰霊祭に1000人　－山口大医学部－
（宇部：11日）

◆ 日中韓の研究者 雇用問題を討議
－あす山口大－　（中国：17日）

◆ 大学生がフリマ企画
－空き店舗を学生交流の場に－
目指すは50店舗！　（サンデー山口：17日）

◆ 企業と共同研究・医療機関と連携
山大は地域貢献など柱（山口・読売：17日）

◆ 生き残りかけ各校が独自色－中期計画素案－
九州大　全学あげてアジアに重心
山口大　有力な研究教員を優遇（朝日：17日）

◆ 性別の問題点東アジアで比較
－山大公開講座受講30人募集　（読売：23日）

◆ ダム湖水質浄化に光明
－山口大工学部の今井助教授ら－
溶解装置に新技術賞　（宇部時報：23日）

◆ 講座・講演会へどうぞ
ジェンダーから見た東アジア・日本社会
地方史「過去・現在・未来」－山大経済学部－
（朝日：23日、サンデー山口：24日）

◆ 来月２日山大「姫山祭」
お笑いライブやふぐ鍋も
（山口：24日、朝日：29日、サンデー山口：31日）

◆ 教育改革の動き報告　－山大で合同研究集会－
（読売：26日）

◆ 山口大がフォーラム　31日
大学教育機構の完成記念　（防長：26日）

◆ シンボルマーク意見募り決定へ
山口大、２日の学園祭　（山口：29日）

◆ 神奈川の朝鮮学校生に　山大が入学資格初認定
（山口：30日、読売・朝日：31日）

◆ 就職戦線 新聞生かそう
「就職試験を勝ち抜く新聞の読み方講座」
（中国：30日）

公開講座のお知らせ

講座名	開設期間	受講対象者	開催会場	問合せ先
ヒューマンスクール ～表現すること～	10月1日(水) ～ 12月10日(水) [隔週水曜日開講]	市民一般	山口大学 教育学部 講義室	山口大学学務部教務課 TEL　083-933-5150 住所　山口市大字吉田1677-1 (募集期間／9月1日～9月25日)
女性のための講義と実習による健康教育講座： （基礎編）	10月6日(月) ～ 11月22日(土)	宇部近郊に在住する中・高年女性	宇部市 武道館	山口大学医学部庶務係 TEL　0836-22-2007 住所　宇部市南小串1丁目1-1 (募集期間／未定)
日本文化コース 「歌と言葉」	10月4日(土) ～ 12月13日(土) [隔週土曜日開講]	市民一般 学生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学学務部教務課 TEL　083-933-5150 住所　山口市大字吉田1677-1 (募集期間／4月上旬～10月2日)
外国語学習コース （フランス語） 「ペローの童話を フランス語で読む」	10月4日(土) ～ 11月29日(土) [隔週土曜日開講]	市民一般 学生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学学務部教務課 TEL　083-933-5150 住所　山口市大字吉田1677-1 (募集期間／4月上旬～10月2日)
現代文化コース 「美的に生きる」	10月4日(土) ～ 12月13日(土) [隔週土曜日開講]	市民一般 学生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学学務部教務課 TEL　083-933-5150 住所　山口市大字吉田1677-1 (募集期間／4月上旬～10月2日)
身近な化学とバイオを 体験しよう	11月22日(土)	高校生 市民一般 高等学校教諭	山口大学 工学部 D講義棟 D24教室	山口大学工学部総務係 TEL　0836-85-9003 住所　宇部市常盤台2丁目16-1 (募集期間／～11月14日)
ジェンダーから見た 東アジア・日本社会	11月7日(金) ～ 12月12日(金) [隔週金曜日開講]	市民一般	山口大学 経済学部 講義室	山口大学学務部教務課 TEL　083-933-5150 住所　山口市大字吉田1677-1 (募集期間／10月1日～10月31日)

原稿をお寄せ下さい

広報誌は、学内だけでなく、山口県内の高校以上の教育機関、地方自治体及び主として、中国・四国地区の企業等学内外の約500の機関に配布します。

ア. Q&A欄について

山口大学についての質問をお寄せください。質問は、お名前、所属、職（学生の場合は学年）、年齢を付して文書でお願いします。Q&A欄に採用させていただくときには、字数などの関係で文章を一部修正させていただくことがありますのでご了承ください。学外からの質問を歓迎します。

イ. 催し物について

公開講座、学会、研究会等の開催計画がありましたら、日時、場所、名称、責任者氏名、所属、電話番号などをお知らせ下さい。

ウ.「私の授業」「私の研究」「国際交流」「山口大学の将来についての提言」など

「私の授業」「私の研究」では、日頃おやりになっていることを、高校生にもわかるように、やさしく述べていただければと存じます。また、昨今、大学の将来についての関心が高くなっています。そこで、山口大学の将来あるべき姿について、学内外から原稿をいただければ幸いです。建設的なご意見を期待します。

【執筆要項】

上記ウについて、執筆要項は次のとおりです。

1．原稿（図、表を含む。）は40字×40行で、できるだけパソコンでお願いします。第１行は題名、２行目は氏名、所属部局名、研究室あるいは講座名、職、本文は４行目から始めてください。本文は３～４に区分し、小見出しをつけて下さい。

読者が連絡や質問をされる場合に便利かと思いますので、お差し支えなければ、原稿の末尾に研究室などの電話番号を括弧書きにしてください。

原稿は次のような形になります。

パソコンを用いない場合は、400字詰原稿用紙４枚以内で、パソコンの場合の要領に準じてお願いします。パソコンで原稿を作成された場合、お差し支えなければ原稿と一緒にフロッピーをお貸しいただければ幸甚に存じます。

第１行　題名
第２行　氏名、所属部局名、研究室名、職
第３行　（空白）
第４行　本文始まり
・
・
第40行　本文終わり
（TEL＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

2．ご自分が写っている写真を１枚と本文に関連する写真も添付してください。研究や授業の場面の写真を歓迎します。

原稿には締切期限を設けません。適宜、下記までお送りください。そのほか、種々のお問い合せも下記まで。また、原稿はE-mailで送っていただいても結構です。

〒753－8511
山口市大字吉田1677-1
山口大学総務部総務課（総務課広報室）
広報・調査係長　後藤　明利
TEL.083-933－5007　FAX.083-933-5013
E-mail:SH011@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

編集後記

本号の特集として「私の就職活動」を掲載しました。“就職”という言葉の意味が、現在では、以前の一企業永久就職という概念とは次第に異なって来ていますが、依然、多くの就労者は一企業で生涯を送っています。このように現在においても、“就職”は学生にとって人生を決める一大岐路であることに変わりはありません。就職活動の専門家、就職支援担当教官あるいはOB・OGの投稿文の中によく使われている言葉として「自己分析」、「自分のやりたい仕事」、「熱意・意欲」などが挙げられています。就職活動する際にはこれらのキーワードが重要と思います。来年４月からの法人化に向けての中期目標・中期計画の就職活動に関する項目の中にも、即戦力のある学生を育てること、学生の就職活動の支援センターの充実などが謳われています。このように、本学も学生が希望の企業・職種に就職できるようにカリキュラムの充実や支援体制の整備が進行しつつあります。本号が、これから就職活動を始める学生諸君の一助になればと思います。

高橋　睦夫

◎山口大学ホームページ http://www.yamaguchi-u.ac.jp/index_j.html

山口大学広報第六十八号

平成十五年十月二十二日発行

編集発行　山口大学広報委員会

（総務部　総務課　広報室）

住　所　山口市大字吉田一六七七―一

電　話　（０８３）９３３―５００７

ＦＡＸ　（０８３）９３３―５０１３

E-mail　SHO11@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

印　刷　株式会社 ふじたプリント社

広報活動専門委員会委員

小谷　典子（委員長　人文学部）
坪郷　英彦（人文学部）
福田　隆眞（教育学部）
マルク・レール（経済学部）
小宮　克弘（理学部）
高橋　睦夫（医学部）
宮本　文穂（工学部）
横山　和平（農学部）
野島　真治（附属病院）

専門委員

堀江　穆（アドミッションセンター）
熊谷　武洋（教育学部）
木下　武志（工学部）
杉井　学（メディア基盤センター）